

第4章 公共施設類型分類別の分析

本章では、施設を中分類又は小分類別に、主として利用者数やコスト、延床面積といった情報を基に分析することで、公共施設の現状と今後の課題を明らかにしていきます。

各図・表の見方を簡単に解説します。

【図・表例とデータの見方】

1. 施設一覧(中分類別)

小分類	地域	No	施設名称	運営主体	複合施設	延床面積 (㎡)	老朽化度 (%)	主要建物建築年度	主要建物構造
コミュニティセンター	〇〇	1	〇〇コミュニティセンター	直営		433	78.63	昭和55年度	鉄骨造
	××	2	××コミュニティセンター	直営	●	339	104.17	昭和63年度	鉄骨造
公民館	〇〇	1	〇〇中央公民館	直営		996	62.26	平成17年度	木造
	〇〇	2	〇〇東地区公民館	直営		692	66.00	昭和50年度	鉄筋コンクリート
	△△	3	△△中央公民館	直営		2,581	43.00	昭和53年度	鉄筋コンクリート
	△△	4	△△地区公民館	直営		655	133.33	昭和62年度	鉄筋コンクリート
その他集会所	〇〇	1	〇〇ふるさと会館	指定管理者		2,023	91.09	平成03年度	鉄筋コンクリート

◆ 公共施設類型分類別の施設の基本情報の一覧です。所在する地域と施設名称、運営主体、複合施設、延床面積、老朽化度、主要建物建築年度と構造の状況を整理しています。

運営主体	施設の運営主体者を示しています。 本市が直接運営する施設は「直営」、指定管理者制度(公の施設の管理を民間事業者を含む自治体外の団体(指定管理者)に委託することができる制度)を導入している施設は「指定管理者」と表記しています。
複合施設	同一建物の中に複数の機能が存在する施設で、該当する施設に「●」を表示しています。建物ごとに機能が分かれている場合は、この限りではありません。
老朽化度	【計算式】 ① 経過年数÷耐用年数＝【1棟毎老朽化度】 ② (A棟延床面積×A棟老朽化度+B棟延床面積×B棟老朽化度+C棟・・・)÷施設延床面積＝【1施設毎老朽化度】 ○ 100%以上の場合、経過年数が耐用年数を超えた状態にあり、数値が大きいほど老朽化が進んでいることを示します。逆に、100%未満の場合は、経過年数が耐用年数を下回っている状態にあり、指標値が低いほど新設に近いことを示します。 ○ 1つの施設の中に複数の棟がある場合は、延床面積をベースとした加重平均値として算出しています。したがって、主要建物建築年度は古くても、その他の建物が新しい施設は老朽化度 100%未満の数値として算出されるなどの場合があります。 ○ 耐用年数は、「減価償却資産の耐用年数等に関する省令」に準拠しています。なお、減価償却は、あくまで適切なコスト計算のために実施するものであり、耐用年数を超えたとしても、直ちに施設を安全に使用できない訳ではありません。
主要建物建築年度	施設内の主要建物(学校の校舎など施設の主な機能を持つ建物)が建築された年度を表記しています。
主要建物構造	施設内の主要建物の建築構造を表記しています。グラウンドや公園などの屋外施設の場合は、施設内にある事務所やトイレ等の構造を表記しています。

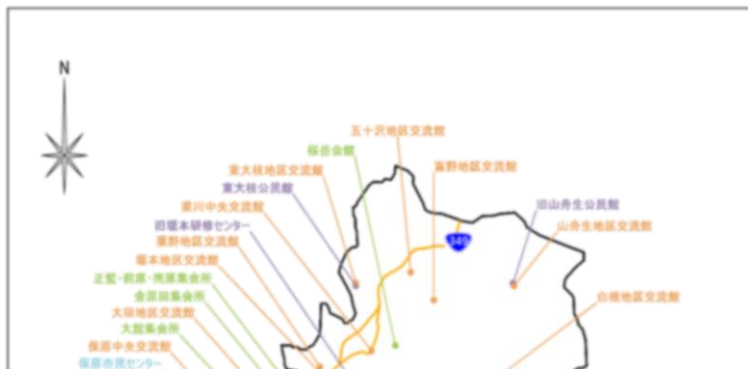
2. 利用度・コスト一覧(中分類別)

施設名称	維持管理費(千円)	事業運営費(千円)	コスト(千円)	利用者数(人)	利用者1人当たりのコスト(円/人)	減価償却費(千円)	フルコスト(千円)	利用者1人当たりのフルコスト(円/人)	収入(千円)	ネットコスト収支差額(千円)	指定管理料(千円)
コミュニティセンター											
○○コミュニティセンター	3,810	11,816	15,627	7,433	2,102	3,677	19,304	2,597	65	19,239	—
××コミュニティセンター	3,819	6	3,826	5,316	719	813	4,640	872	512	4,127	0
小計	9,516	12,936	22,453	43,058	521	9,835	32,288	749	1,248	31,040	0
公民館											
○○中央公民館	5,023	6,005	11,028	41,722	264	3,974	15,003	359	61	14,941	—
○○東地区公民館	2,938	1,838	4,777	5,514	866	2,491	7,268	1,318	433	6,835	—
△△中央公民館	6,063	498	6,562	52,679	124	8,929	15,491	294	198	15,293	0
△△地区公民館	1,012	520	1,533	8,580	178	2,358	3,891	453	0	3,891	0
小計	54,463	65,091	119,555	326,507	366	65,967	185,522	568	2,725	182,796	0
その他集会所											
○○ふるさと会館	16,954	7,785	24,740	38,323	645	7,282	32,023	835	5,015	27,007	—
小計	16,988	9,259	26,248	38,323	684	10,402	36,650	956	5,015	31,634	0
合計	82,498	91,156	173,655	412,688	420	91,003	264,659	641	9,019	255,639	0

- ◆ 施設ごとに利用度やコストを明らかにしています。
- ◆ 維持管理費と事業運営費の合計をコスト、建物の老朽化の進行を表す減価償却費を含めたコストをフルコスト、フルコストから利用者等から受け取る収入を差し引いたものをネットコストとして整理しています。

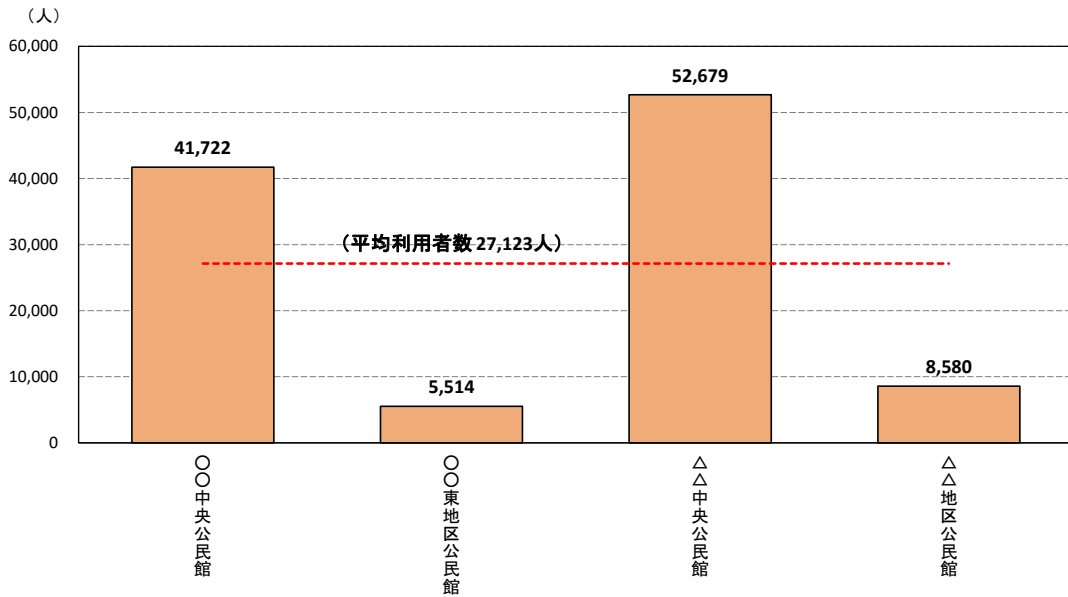
維持管理費	改修・修繕にかかる費用(修繕費)とランニングコスト(光熱水費等、土地建物賃借料)です。
事業運営費	事業を運営するためにかかる費用(人件費、運営業務委託費など)です。
コスト	維持管理費＋事業運営費 支出ベースの年間のコストを表しています。
利用者数	平成26年度に施設を利用した人数です。
減価償却費	建物の取得価額を耐用年数で除した額で、建設コストの毎年度の負担額です。
フルコスト	維持管理費＋事業運営費＋減価償却費 減価償却費を含めた発生ベースの年間のコストを表しています。
収入	施設使用料、手数料など受益者負担として収入した金額です。
ネットコスト	維持管理費＋事業運営費＋減価償却費－収入 フルコストから収入を控除したもので、発生コストの純額を表しています。
指定管理料	市から指定管理者へ支払われる委託費です。

3. 施設配置状況(中分類別)



- ◆ 公共施設類型分類別に該当施設の配置状況を地図情報で明らかにしています。
- ◆ 地図情報をもとに、公共施設の配置が適切であるかどうかの検討の参考とします。

4. 利用者数(小分類別)

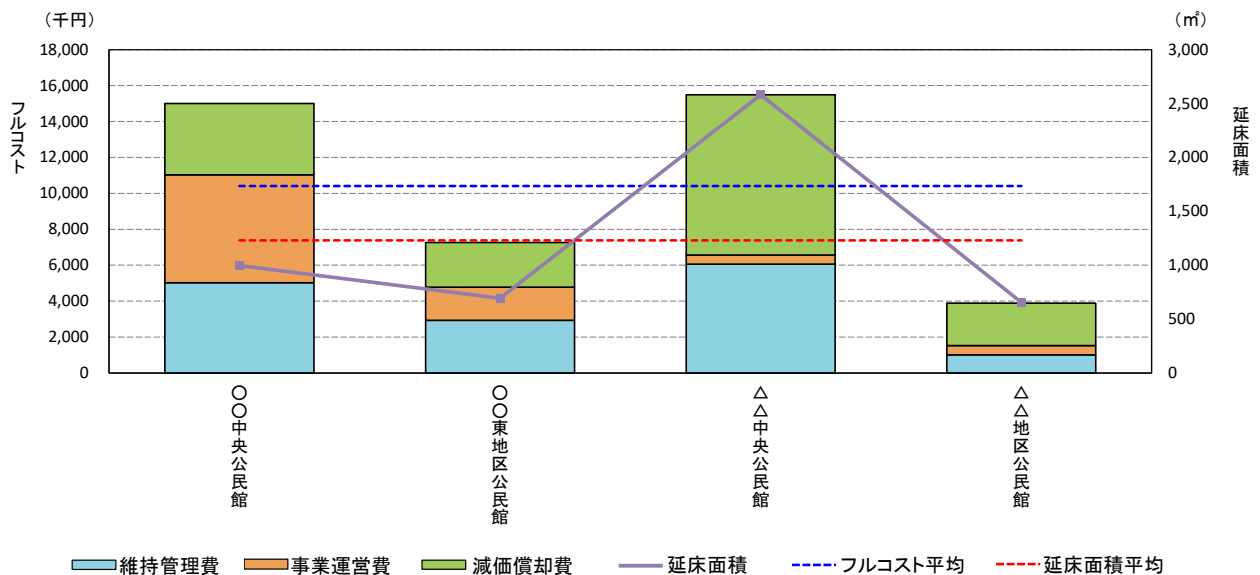


◆ 棒グラフで公共施設類型分類別に各施設の利用者数と平均値を示しています。

◆ グラフ形式で比較分析を行うことで、利用度が低い施設の特定などに役立てます。

※ 分類内に1施設のみ場合は、比較の目的を果たさないためグラフの掲載無しとしています。

5. フルコストと延床面積(小分類別)

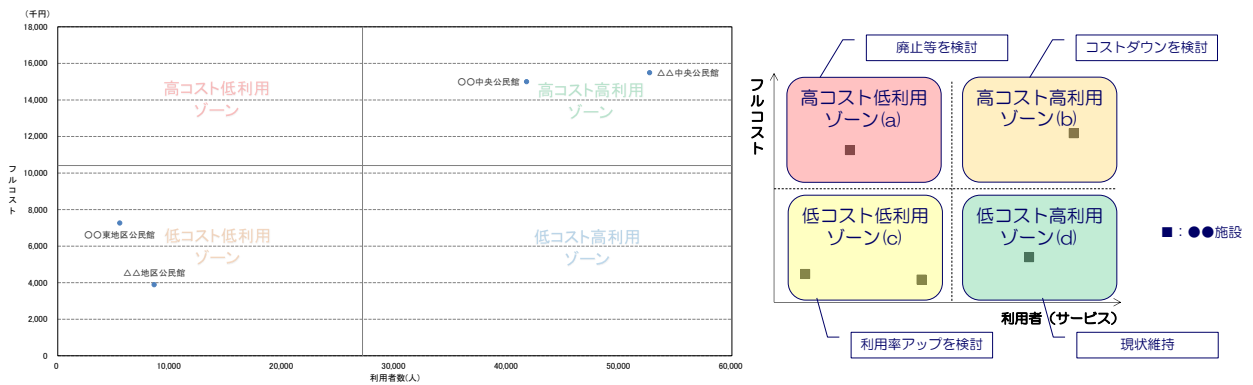


◆ 棒グラフでフルコストとその内訳、折れ線で延床面積を示しています。また、フルコストの平均値を青の破線、延床面積の平均値を赤の破線にて示しています。

◆ グラフ形式で比較分析を行うことで、類型内における各施設の規模や財政的な影響を把握します。

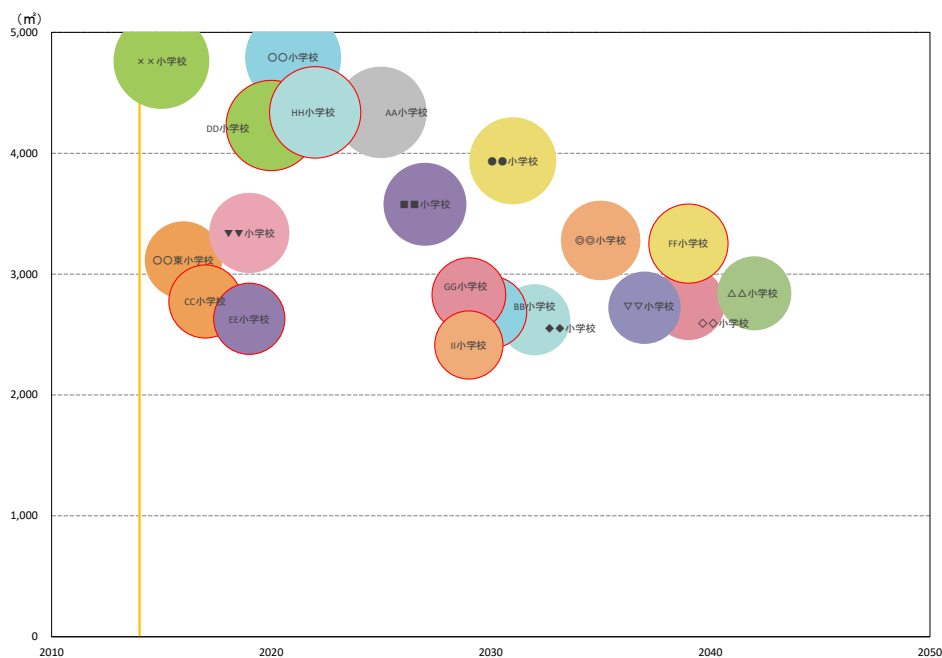
※ 分類内に1施設のみ場合は、比較の目的を果たさないためグラフの掲載無しとしています。

6. 利用者数とフルコスト(小分類別)



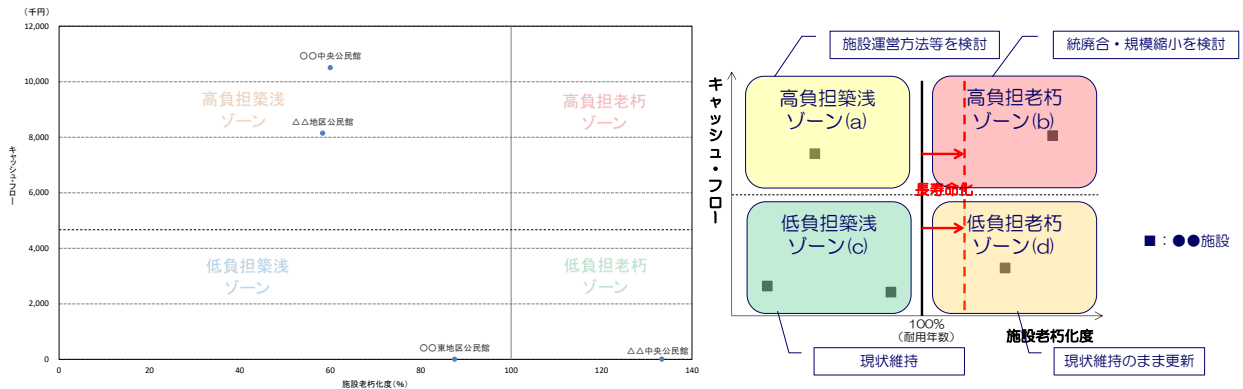
- ◆ 散布図で利用者数とフルコストを示しています。縦に引かれたグレーの実線は利用者数の平均値を、横に引かれたグレーの実線はフルコストの平均値を示しています。
 - ◆ 2軸による4象限で表示することにより、利用とコストの状況を示します。各象限の意味するところは右上図のとおりであり、これらの象限を目安として取るべき対応手段が分かります。
- ※ 分類内に1施設のみの場合は、比較の目的を果さないためグラフの掲載無しとしています。

7. 延床面積と耐用年数到来年度(小分類別)



- ◆ バブル図で延床面積と耐用年数到来年度を示しています。グラフ上の黄色の縦線は調査時点の年度を示しています。
 - ◆ 2軸で表示することにより、各施設の規模と更新時期の重なりを把握します。
 - ◆ バブルの大きさは延床面積に比例し、施設規模の大きなものほどバブルも大きく表示されます。
- ※ 本章については比較的施設数の多い小分類や建替え・取り壊しの対象になりやすい小分類を抜粋して掲載しています。

8. キャッシュ・フローと老朽化度(小分類別)



- ◆ 散布図でキャッシュ・フローと老朽化度を示しています。
- ◆ 縦に引かれた実線は老朽化度 100%を示します。これより右側は耐用年数を経過した施設であることを、左側はまだ耐用年数未経過であることを示します。建設時は左端の 0%からスタートし、毎年経過するごとに徐々に右側に移動します。
- ◆ 横に引かれた点線は、キャッシュ・フローの平均値を示します。施設によっては収入超過となるものがあり、その場合は、マイナスの値として示されます。
- ◆ キャッシュ・フローの平均値と老朽化度 100%の水準で 4 象限を作り、施設がプロットされたゾーンごとに公費負担度合いと老朽化度を一目で把握します。老朽化度 100%を超えているもの(ないし 100%に近いもの)は更新等の対応を検討すべき施設です。また、老朽化度が 100%未満であっても、キャッシュ・フローが大きく、高コスト体質(公費負担が重い)とされるものは、早急にコストの削減等を検討し、施設利用期間におけるトータルコストの圧縮を検討する必要があります。

※ 分類内に 1 施設のみ場合は、比較の目的を果たさないためグラフの掲載無しとしています。

キャッシュ・フロー	維持管理費＋事業運営費－収入 コストから収入を控除したもので、支出コストの純額を表しています、いわゆる、毎年の公費負担額を表しています。プラスは支出超過の状態を、マイナスは収入超過の状態を表しています。
-----------	--

1 集会施設の状況

表 4-1-1 集会施設の一覧

小分類	地域	No	施設名称	運営主体	複合施設	延床面積 (㎡)	老朽化度 (%)	主要建物建築年度	主要建物構造
コミュニティ施設	黒磯	1	旧稲村公民館	直営		145	53.33	平成 10年度	軽量鉄骨造
	黒磯	2	東原地域活動センター	直営		265	52.63	平成 6年度	鉄骨造
小計						411			
合計						411			

コミュニティ施設は、市内に 2 施設あり、延床面積は合計 411 ㎡です。

表 4-1-2 集会施設の利用度とコストの一覧

施設名称	維持管理費 (千円)	事業運営費 (千円)	コスト (千円)	利用者数 (人)	利用者 1人当たりのコスト (円/人)	減価償却費 (千円)	フルコスト (千円)	利用者 1人当たりのフルコスト (円/人)	収入 (千円)	ネットコスト収支差額 (千円)	指定管理料 (千円)
コミュニティ施設											
旧稲村公民館	0	0	0	—	—	444	444	—	0	444	—
東原地域活動センター	169	37	207	3,200	64	644	851	266	0	851	—
小計	169	37	207	3,200	64	1,089	1,296	405	0	1,296	0
合計	169	37	207	3,200	64	1,089	1,296	405	0	1,296	0

コミュニティ施設の利用者数の合計は 3,200 人です。フルコストは 1,296 千円です。

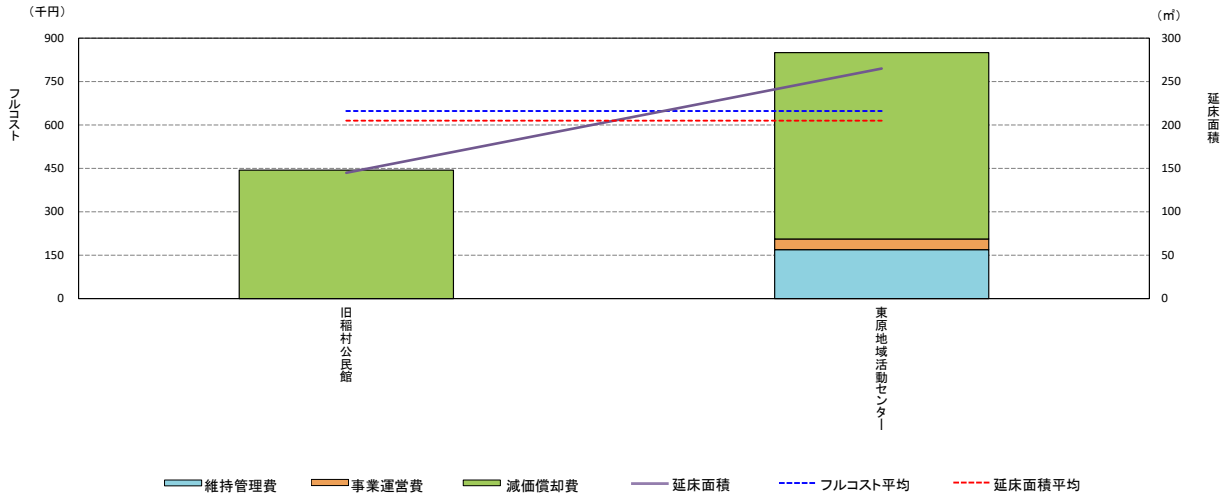
コミュニティ施設は投票所や地域の集会など、コミュニティの活動に使用される施設です。その内、東原地域活動センターは、投票所としても利用されています。

図 4-1-1 集会施設の配置状況



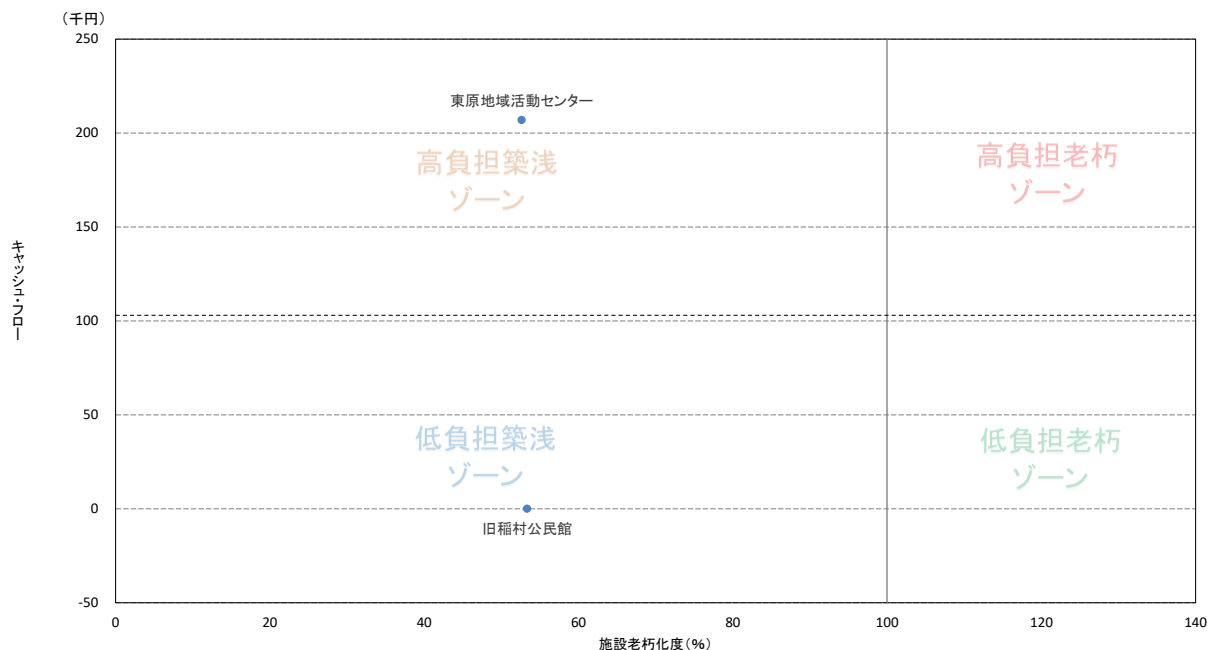
① [集会施設] コミュニティ施設の状況

図 4-1-2 コミュニティ施設のフルコストと延床面積



コミュニティ施設の延床面積は、旧稲村公民館が 145 ㎡で、東原地域活動センターが 265 ㎡です。また、フルコストは、旧稲村公民館が 444 千円であり、東原地域活動センターが 851 千円です。

図 4-1-3 コミュニティ施設のキャッシュ・フローと老朽化度



コミュニティ施設は市内に 2 施設あり、いずれも運営は本市の直営で行われ、どちらも黒磯地域に設置しています。どちらも平成初期に建築しており、現時点では老朽化対策が急務という状況ではありません。

キャッシュ・フローの方は、どちらもそれほど負担が大きいものではありません。黒磯地域は将来的に人口が減少していくことが推計されていることも踏まえ、両施設の今後のあり方について検討する必要があります。

2 文化施設の状況

表 4-2-1 文化施設の一覧

小分類	地域	No	施設名称	運営主体	複合施設	延床面積 (㎡)	老朽化度 (%)	主要建物建築年度	主要建物構造
文化会館	黒磯	1	黒磯文化会館	指定管理者		6,354	64.00	昭和 57年度	鉄骨鉄筋コンクリート
	西那須野	2	三島ホール	直営	●	1,419	56.00	昭和 61年度	鉄筋コンクリート
小計						7,772			
合計						7,772			

文化会館は、市内に 2 施設あり、延床面積は合計 7,772 ㎡です。

表 4-2-2 文化施設の利用度とコストの一覧

施設名称	維持管理費 (千円)	事業運営費 (千円)	コスト (千円)	利用者数 (人)	利用者 1人当たりのコスト (円/人)	減価償却費 (千円)	フルコスト (千円)	利用者 1人当たりのフルコスト (円/人)	収入 (千円)	ネットコスト収支差額 (千円)	指定管理料 (千円)
文化会館											
黒磯文化会館	41,638	56,687	98,325	54,876	1,791	29,863	128,188	2,335	6,109	122,078	73,742
三島ホール	3,171	11,543	14,715	23,992	613	5,106	19,822	826	2,176	17,645	—
小計	44,809	68,230	113,040	78,868	1,433	34,970	148,010	1,876	8,286	139,724	73,742
合計	44,809	68,230	113,040	78,868	1,433	34,970	148,010	1,876	8,286	139,724	73,742

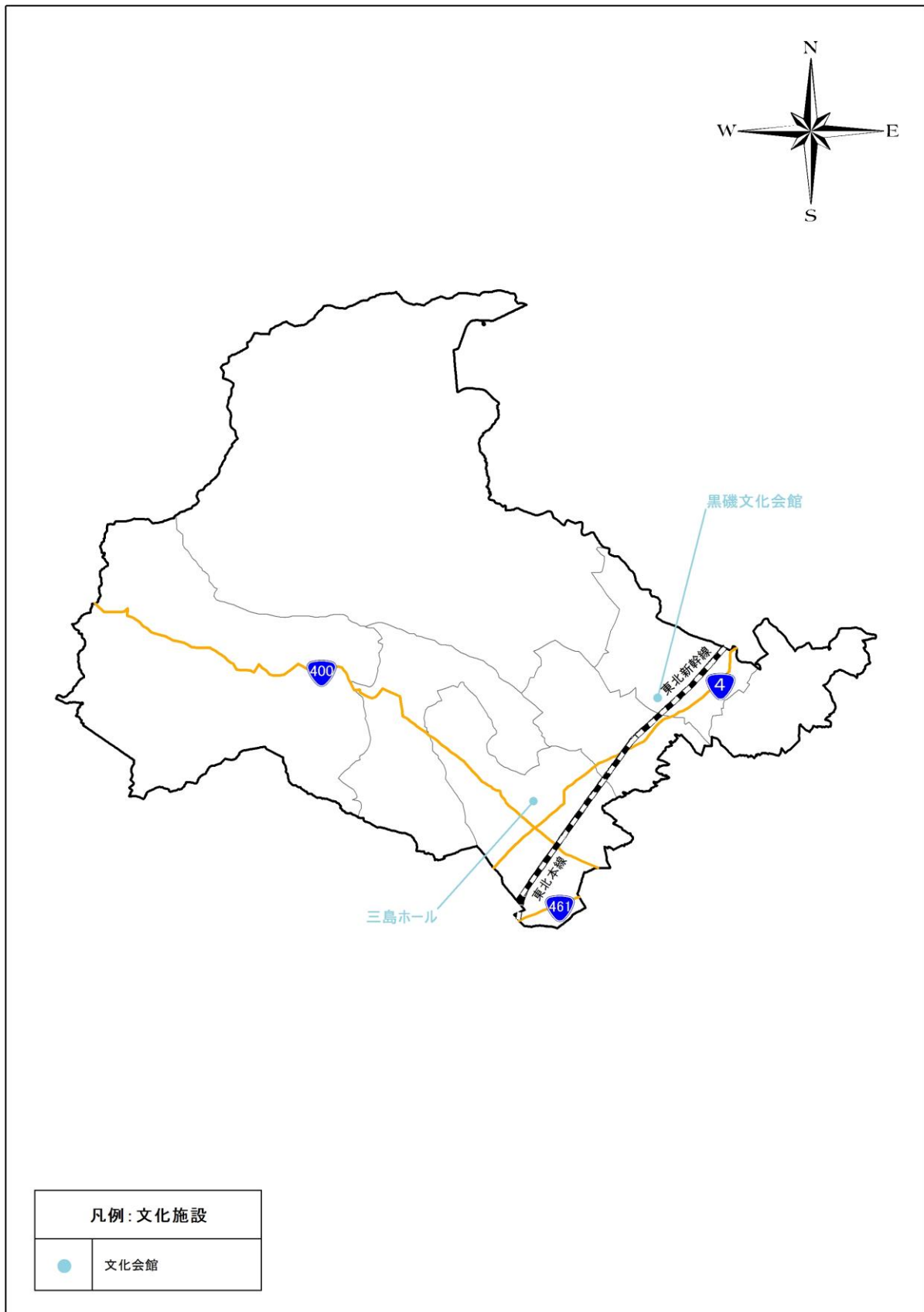
文化会館の利用者数の合計は 78,868 人です。フルコストは 148,010 千円です。

文化会館は、ホールを有する施設でコンサートを始め様々な催し物などが開催される文化系施設です。

その内、黒磯文化会館は、1,456 席ある大ホールと 404 席の小ホールを有しており、コンサートや演劇などの催し物が行われています。

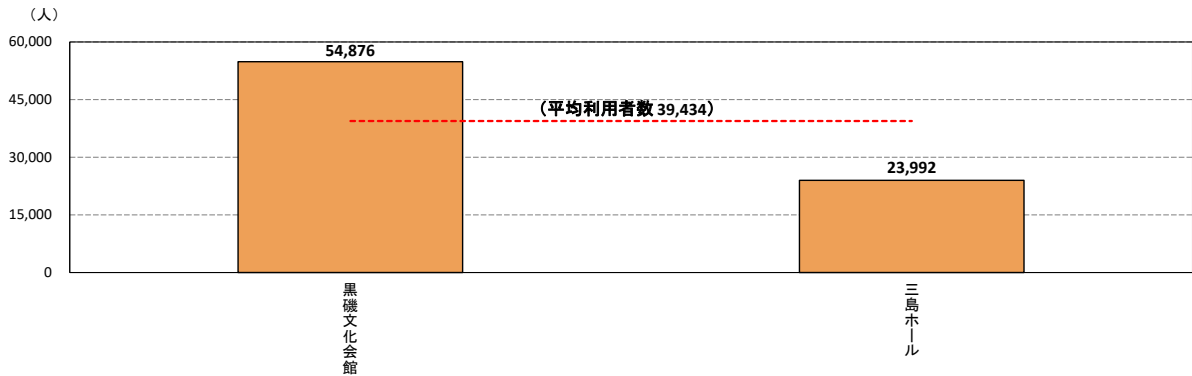
三島ホールは複合施設であり、三島公民館を併設しています。ホールには 485 席が設置されており、ピアノの発表会など地域に根ざした催し物に利用されています。

図 4-2-1 文化施設の配置状況



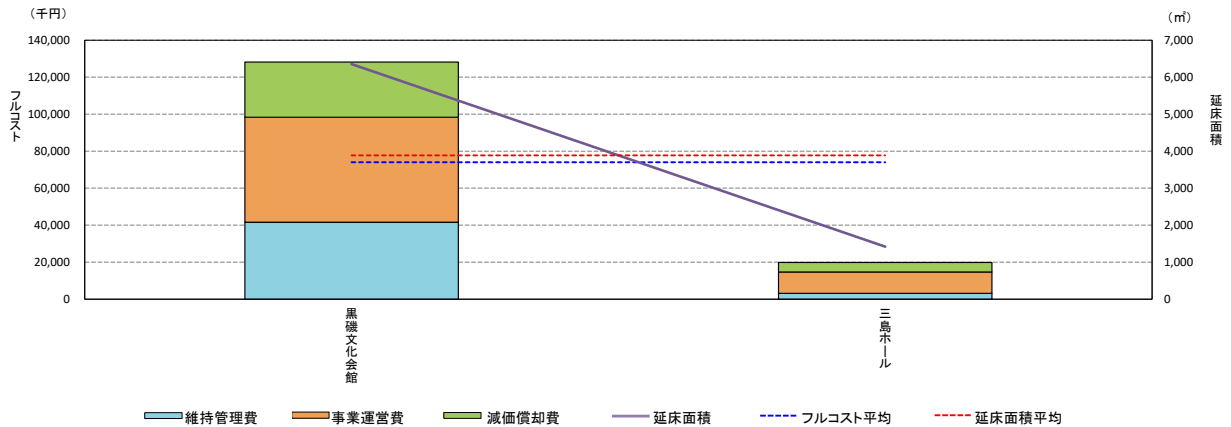
① 〔文化施設〕文化会館の状況

図 4-2-2 文化会館の利用者数(平成 26 年度)



文化会館のうち、黒磯文化会館の利用者数は 54,876 人であり、三島ホールの利用者数は 23,992 人です。

図 4-2-3 文化会館のフルコストと延床面積



文化会館の延床面積は、黒磯文化会館が 6,354 ㎡で、三島ホールが 1,419 ㎡です。また、フルコストは、黒磯文化会館が 128,188 千円であり、三島ホールが 19,822 千円です。

図 4-2-4 文化会館の利用者数とフルコスト

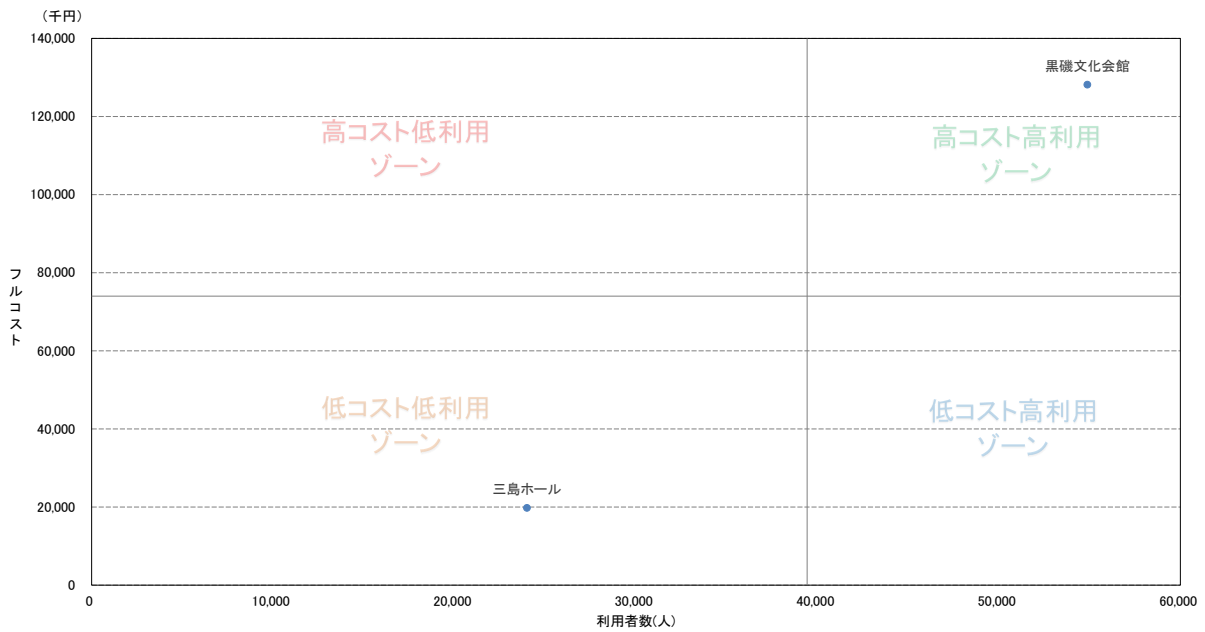
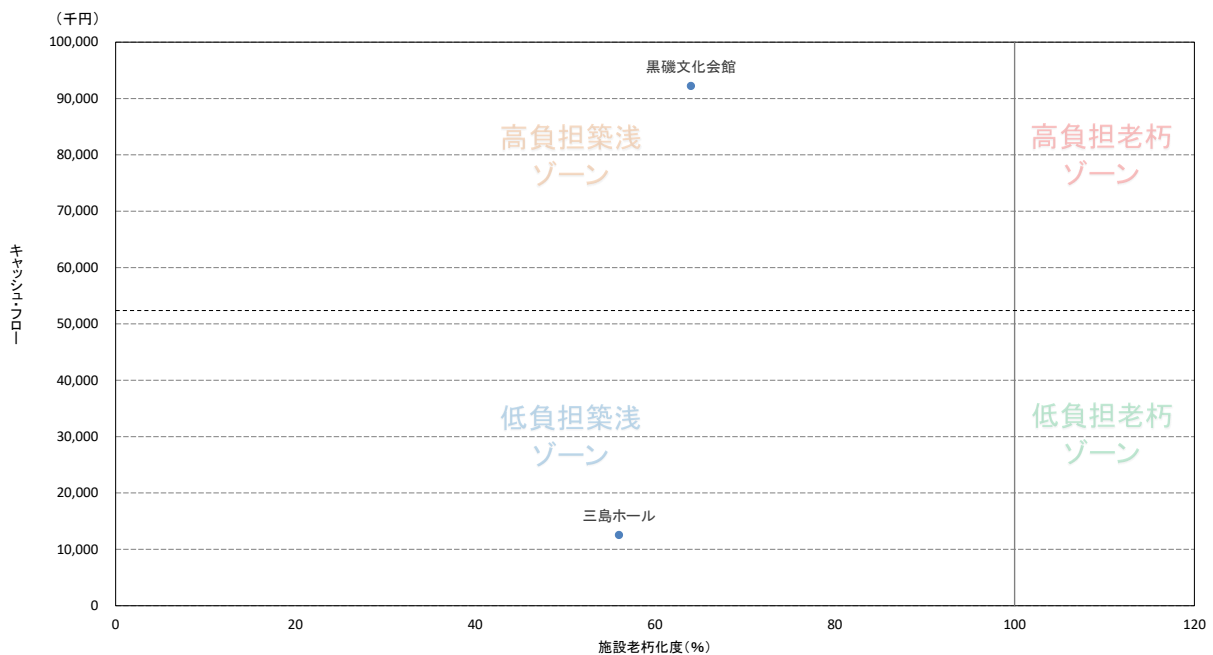


図 4-2-5 文化会館のキャッシュ・フローと老朽化度



文化会館は市内に2施設あり、黒磯文化会館は指定管理者により運営され、三島ホールは本市の直営で行われています。

黒磯文化会館は昭和57年度、三島ホールは昭和61年度に建築された施設であり、まだ耐用年数は到来していませんが、老朽化度は50~60%近くなっており、老朽化が進んでいます。黒磯文化会館は、キャッシュ・フローが98,325千円となっており、今後の当施設の維持運営にあたっては、各施設の利用者数、維持管理費用と今後の人口動向を踏まえてコスト面での運営方法等の検討が必要な可能性があります。

3 公民館の状況

表 4-3-1 公民館の一覧

小分類	地域	No	施設名称	運営主体	複合施設	延床面積 (㎡)	老朽化度 (%)	主要建物建築年度	主要建物構造
公民館	黒磯	1	黒磯公民館 (いきいきふれあいセンター)	直営	●	3,417	42.94	平成 6年度	鉄筋コンクリート
	黒磯	2	厚崎公民館(多目的研修センター)	直営		1,613	84.21	昭和 57年度	鉄筋コンクリート
	黒磯	3	稲村公民館 (稲村コミュニティセンター)	直営		1,000	5.26	平成 24年度	鉄骨造
	黒磯	4	とよら公民館	直営		578	42.11	平成 10年度	鉄骨造
	鍋掛	5	鍋掛公民館 (鍋掛地域コミュニティセンター)	直営	●	1,352	100.85	平成 14年度	木造
	東那須野	6	東那須野公民館	直営		951	23.68	平成 17年度	鉄骨造
	高林	7	高林公民館(高林活力倍増センター)	直営		897	90.91	平成 6年度	木造
	西那須野	8	西那須野公民館	直営	●	1,553	17.04	平成 18年度	鉄骨鉄筋コンクリート
	西那須野	9	三島公民館	直営	●	1,580	56.00	昭和 61年度	鉄筋コンクリート
	西那須野	10	大山公民館	直営		910	80.33	平成 2年度	軽量鉄骨造
	西那須野	11	西公民館	直営		1,029	81.79	昭和 59年度	鉄骨造
	西那須野	12	南公民館	直営		806	83.46	昭和 55年度	鉄骨造
	西那須野	13	狩野公民館	直営	●	865	78.52	平成 3年度	鉄骨造
	塩原	14	塩原公民館	直営	●	378	16.00	平成 18年度	鉄筋コンクリート
	箒根	15	ハロープラザ	直営	●	1,449	40.00	平成 6年度	鉄筋コンクリート
	箒根	16	箒根公民館	直営		1,029	84.00	昭和 47年度	鉄筋コンクリート
小計						19,408			
合計						19,408			

公民館は、市内に 16 施設あり、延床面積は合計 19,408 ㎡です。

表 4-3-2 公民館の利用度とコストの一覧

施設名称	維持管理費 (千円)	事業運営費 (千円)	コスト (千円)	利用者数 (人)	利用者1人当たりのコスト (円/人)	減価償却費 (千円)	フルコスト (千円)	利用者1人当たりのフルコスト (円/人)	収入 (千円)	ネットコスト収支差額 (千円)	指定管理料 (千円)
公民館											
黒磯公民館 (いきいきふれあいセンター)	22,344	38,097	60,441	70,587	856	10,251	70,693	1,001	142	70,550	—
厚崎公民館(多目的研修センター)	9,639	19,456	29,096	38,223	761	5,661	34,757	909	236	34,521	—
稲村公民館 (稲村コミュニティセンター)	2,029	26,310	28,340	21,638	1,309	2,429	30,769	1,422	14	30,755	—
とよら公民館	6,665	27,459	34,125	14,934	2,285	1,405	35,530	2,379	4	35,526	—
鍋掛公民館 (鍋掛地域コミュニティセンター)	3,442	24,549	27,991	29,242	957	2,421	30,413	1,040	96	30,317	—
東那須野公民館	6,360	54,634	60,995	31,814	1,917	2,311	63,307	1,989	18	63,288	—
高林公民館 (高林活力倍増センター)	4,578	23,722	28,300	9,384	3,015	3,713	32,014	3,411	10	32,003	—
西那須野公民館	10,087	27,152	37,240	58,148	640	4,914	42,155	724	20	42,135	—
三島公民館	21,708	36,263	57,972	38,267	1,514	5,689	63,662	1,663	2,277	61,384	—
大山公民館	8,109	16,413	24,523	52,976	462	2,819	27,343	516	81	27,261	—
西公民館	12,196	19,709	31,905	37,453	851	3,046	34,951	933	81	34,869	—
南公民館	4,445	15,199	19,644	36,994	531	1,952	21,597	583	182	21,415	—
狩野公民館	5,942	19,438	25,380	26,266	966	1,454	26,835	1,021	18	26,816	—
塩原公民館	1,911	20,268	22,179	4,817	4,604	1,360	23,540	4,886	111	23,429	—
ハロープラザ	9,687	17,777	27,465	22,988	1,194	5,216	32,681	1,421	154	32,526	—
箒根公民館	500	847	1,347	2,257	597	3,705	5,053	2,238	0	5,053	—
小計	129,649	387,302	516,952	495,988	1,042	58,354	575,306	1,159	3,450	571,856	0
合計	129,649	387,302	516,952	495,988	1,042	58,354	575,306	1,159	3,450	571,856	0

公民館の利用者数の合計は 495,988 人です。フルコストは 575,306 千円です。

公民館は、住民のために、実際生活に即する教育・学術・文化に関する各種の事業を行い住民生活の向上を目的とした社会教育施設です。

黒磯公民館（いきいきふれあいセンター）は、桜の名所、黒磯公園に隣接している「いきいきふれあいセンター（愛称：いきふれ）」の中にあり、施設の管理・運営を行っています。いきふれは、黒磯公民館、社会福祉協議会黒磯支所、消費生活センター、子育て相談センターからなる複合施設です。

厚崎公民館（多目的研修センター）は、農産加工室がありボイラー熱源の設備によりジャムやみそ作りに利用可能です。

稲村公民館（稲村コミュニティセンター）は、パソコン教室やソフトボール大会などのイベントを開催しています。また、一般図書・児童書約 3,500 冊の図書ラウンジも有しています。

とよら公民館は、各種講座や教室、セミナーの他に夏祭りなども開催しています。

鍋掛公民館は、他の公民館と同じく各種講座や教室、バレーボール大会などを開催しています。

東那須野公民館も、他の公民館と同じく各種講座や教室、運動大会などを開催しています。

高林公民館（高林活力倍増センター）は、多目的ホールや調理実習室、創作室などを有しています。

西那須野公民館は、グラウンドを有しておりグラウンドゴルフなどに利用可能です。

三島公民館は、複合施設で三島ホールが併設されています。視聴覚兼音楽室も備えており、楽器練習・コーラス練習などに利用可能です。

大山公民館は、グラウンドを有しており、野球の試合や練習・ソフトボールの試合や練習・グラウンドゴルフなどに利用可能です。また、平成 25 年にマスコットキャラクターの「もみティ」が誕生しました。

西公民館は、グラウンドを有しており、サッカーや野球、ゲートボールなどに使用できます。また、郷土芸能練習室があり、太鼓の練習・ダンスなどに利用可能です。

南公民館は、陶芸室と陶芸窯を有しており、陶芸活動の拠点となっています。また、サッカーやソフトボール等の練習に使用できるグラウンドを有しており、夜間照明設備を備えています。

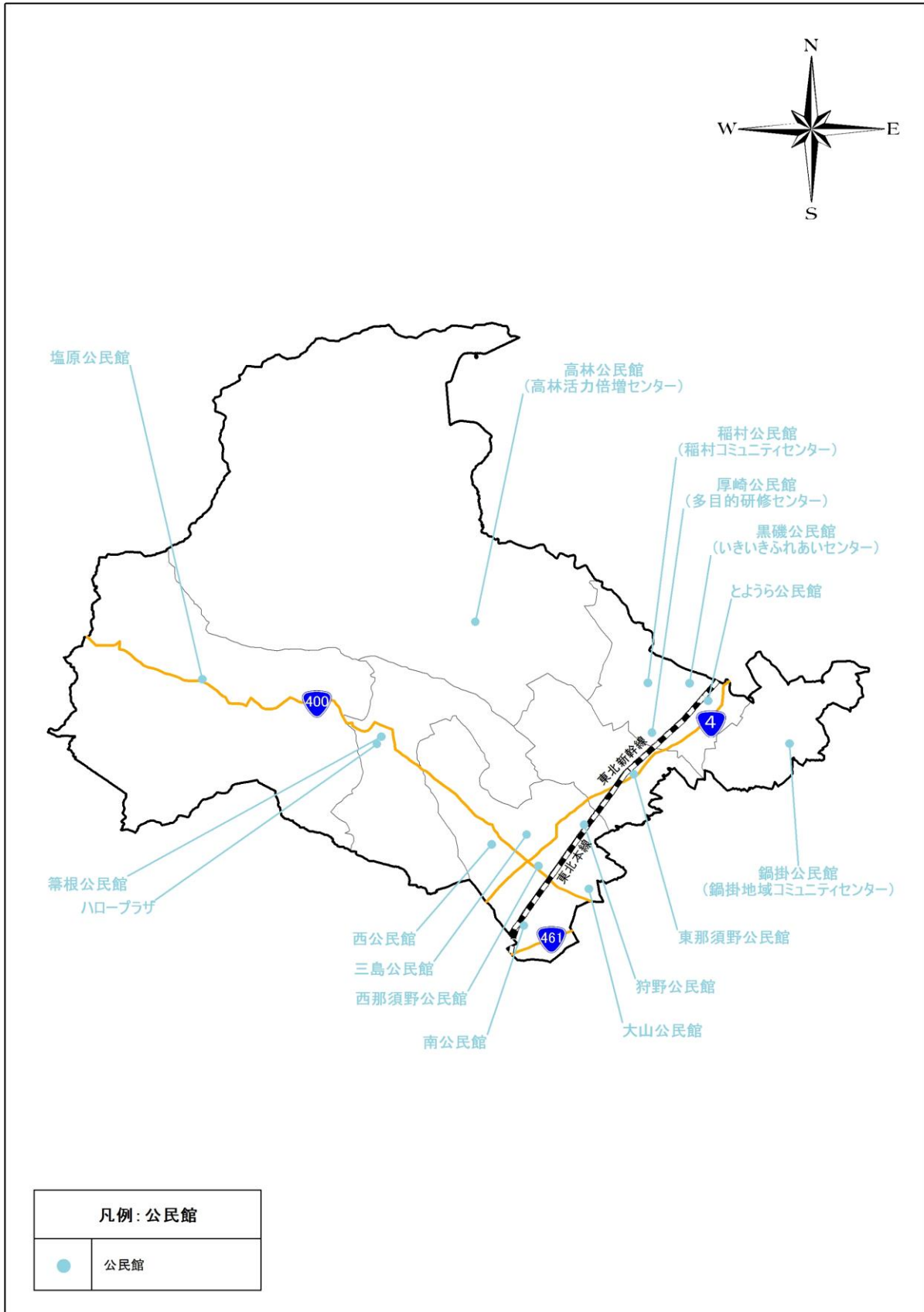
狩野公民館は、グラウンドを有しており、グラウンドゴルフなどに利用可能です。また、体育館があり、軽運動などに利用できます。

塩原公民館は、3 つの会議室を有しており、会議や打ち合わせ等に利用できます。施設内には塩原支所を併設しています。

ハロープラザは公民館としてのハロープラザと行政窓口である箒根出張所及び塩原図書館からなる複合施設です。216 人収容可能な多目的ホールを有しており、サークル活動のほか、講演会や発表会などに使用することが可能な施設です。

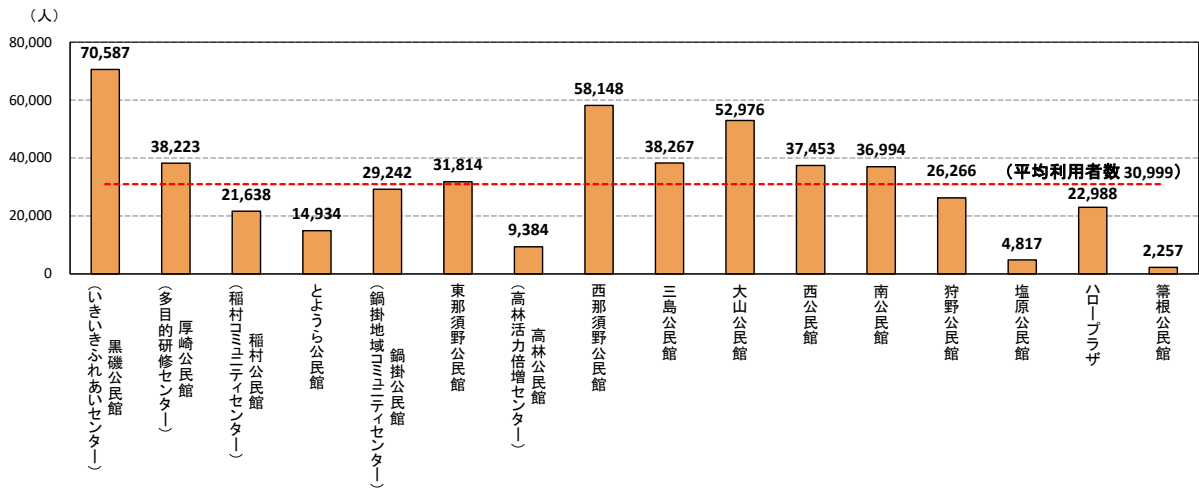
箒根公民館は、老朽化により現在はハロープラザが施設管理を行っています。

図 4-3-1 公民館の配置状況



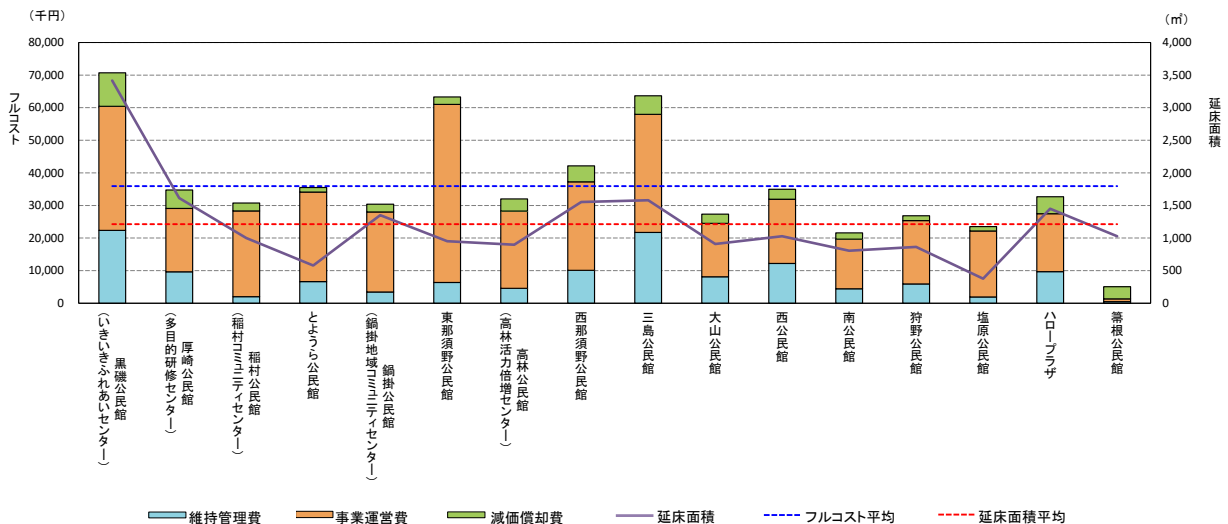
① 〔公民館〕公民館の状況

図 4-3-2 公民館の利用者数(平成 26 年度)



公民館のうち、年間の利用者数が最も多い施設は、黒磯公民館(いきいきふれあいセンター)の70,587人であり、2番目は西那須野公民館の58,148人です。最も利用者数が少ない施設は、箒根公民館の2,257人であり、2番目は塩原公民館の4,817人です。

図 4-3-3 公民館のフルコストと延床面積



公民館のうち、延床面積が最も広いのは、黒磯公民館(いきいきふれあいセンター)の3,417㎡であり、2番目は厚崎公民館(多目的研修センター)の1,613㎡です。また、フルコストが最も高いのは、黒磯公民館(いきいきふれあいセンター)の70,693千円であり、2番目は三島公民館の63,662千円です。

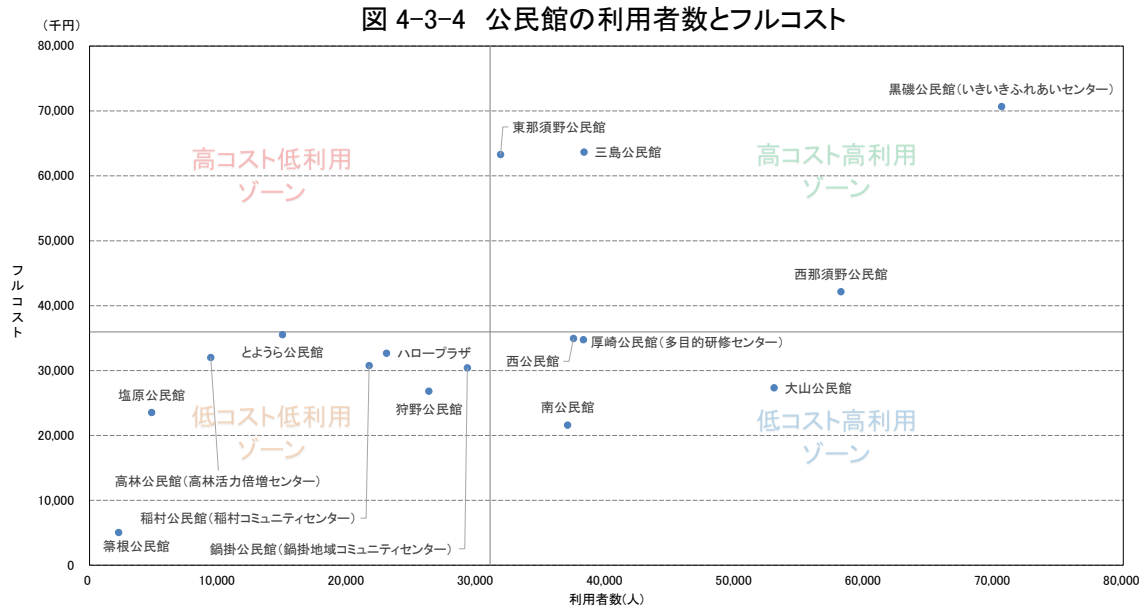
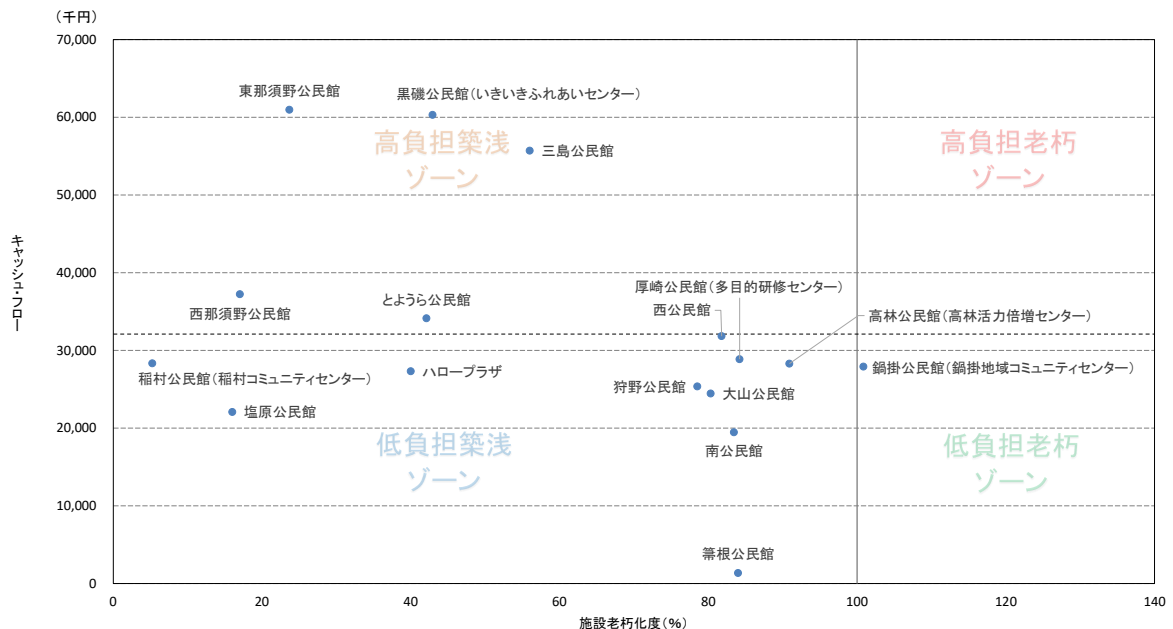


図 4-3-5 公民館のキャッシュ・フローと老朽化度



公民館の運営は、全て本市の直営で行われています。昭和 40 年代、50 年代に建築した老朽化が進行している施設もみられますが、比較的近年に建築された施設が多くなっています。利用者数とフルコストの関係では、東那須野公民館、三島公民館は、利用者数に比してフルコストが高くなっており、コスト面での運営方法等の検討が必要な可能性もあります。黒磯公民館は昭和 47 年度に建築されていることから老朽化が進んでおり、今後の対応を検討する必要があります。また、塩原公民館と黒根公民館の利用者数は他の公民館に比べて極端に少なくなっていることから、両公民館については、他の施設との複合化を含めた今後のあり方について検討する必要があります。現時点では、黒磯地域と西那須野地域に公民館が集中しています。これは両地区の人口が多いことによりますが、今後の人口減少と少子高齢化という年代構成の割合の変化を踏まえると、公民館の設置については、今後の利用者数や利用者の年代層の状況を適切に踏まえた規模とすること及び他の施設が有している機能を集約するなどの検討も必要です。

4 図書館の状況

表 4-4-1 図書館の一覧

小分類	地域	No	施設名称	運営主体	複合施設	延床面積 (㎡)	老朽化度 (%)	主要建物建築年度	主要建物構造
図書館	黒磯	1	黒磯図書館	指定管理者		1,575	56.00	昭和 61年度	鉄筋コンクリート
	西那須野	2	西那須野図書館	指定管理者		1,370	72.00	昭和 53年度	鉄筋コンクリート
	帯根	3	塩原図書館	指定管理者	●	735	40.00	平成 6年度	鉄骨鉄筋コンクリート
小計						3,680			
合計						3,680			

図書館は、市内に 3 施設あり、延床面積は合計 3,680 ㎡です。

表 4-4-2 図書館の利用度とコストの一覧

施設名称	維持管理費 (千円)	事業運営費 (千円)	コスト (千円)	利用者数 (人)	利用者 1人当たりのコスト (円/人)	減価償却費 (千円)	フルコスト (千円)	利用者 1人当たりのフルコスト (円/人)	収入 (千円)	ネットコスト収支差額 (千円)	指定管理料 (千円)
図書館											
黒磯図書館	15,559	52,784	68,344	161,563	423	5,671	74,015	458	491	73,523	58,255
西那須野図書館	11,946	56,186	68,132	127,963	532	4,931	73,063	570	689	72,373	50,662
塩原図書館	2,647	25,251	27,898	36,325	768	3,452	31,351	863	16	31,335	27,161
小計	30,152	134,222	164,375	325,851	504	14,055	178,430	547	1,197	177,233	136,080
合計	30,152	134,222	164,375	325,851	504	14,055	178,430	547	1,197	177,233	136,080

図書館の利用者数の合計は 325,851 人です。フルコストは 178,430 千円です。

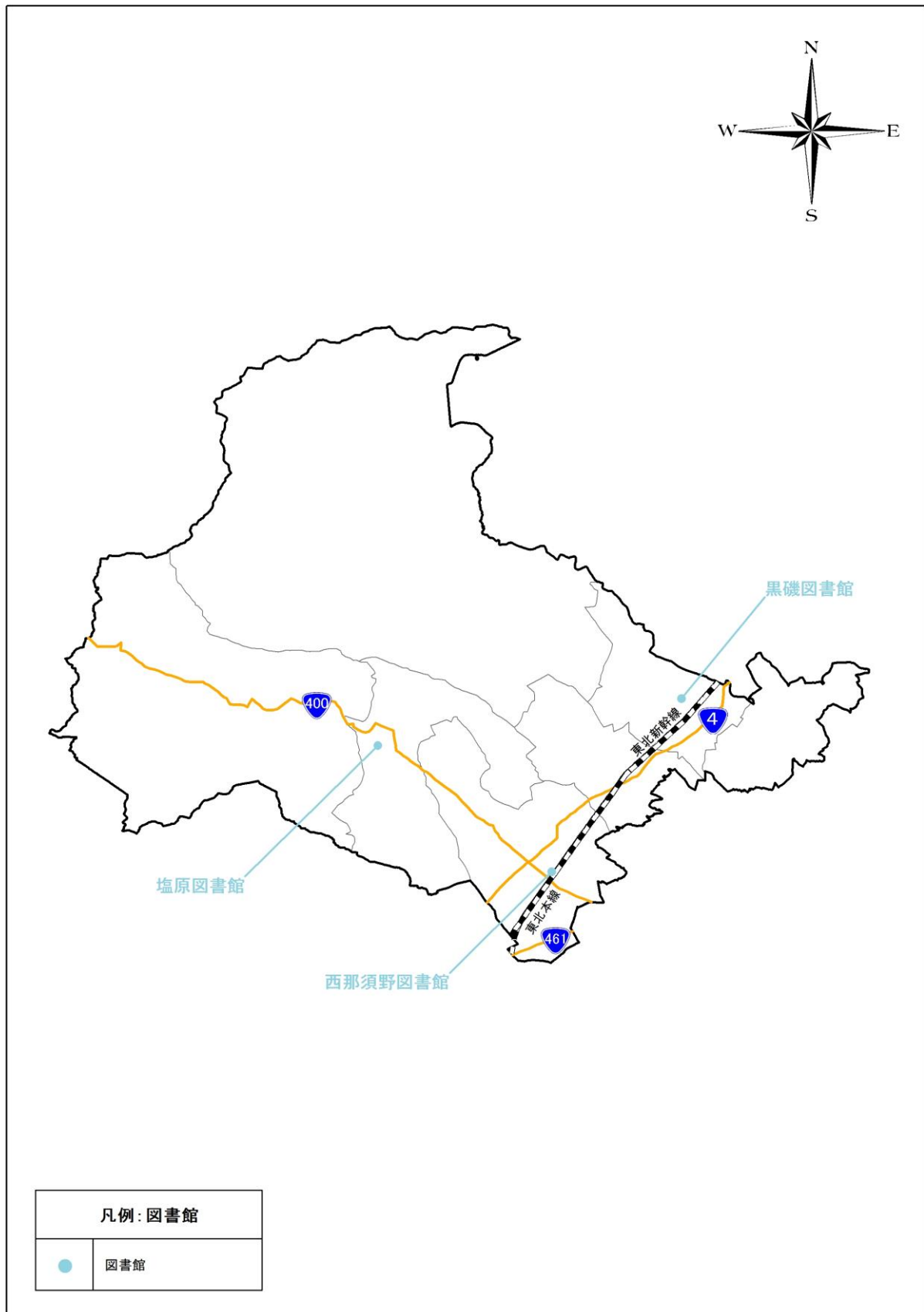
図書館は、図書、雑誌、視聴覚資料、点字資料、録音資料等のメディアや情報資料を収集、保管し、利用者への提供等を行う施設です。

西那須野図書館は、那須塩原市役所西那須野庁舎に隣接し、西那須野駅から徒歩で 5 分程度の場所に位置し、学習の場として、学生の利用が多いのが特徴です。

黒磯図書館は、黒磯駅から約 2 キロ離れ、徒歩で 30 分程度の場所に位置しています。近くに黒磯小学校、黒磯中学校、黒磯高等学校、黒磯南高等学校があり、学生の利用が多いのが特徴です。また、近隣の施設として、病院、郵便局、銀行などがあり、それらの施設の利用者が立ち寄りことから、市内 3 図書館の中では、もっとも多くの人々が利用している図書館です。

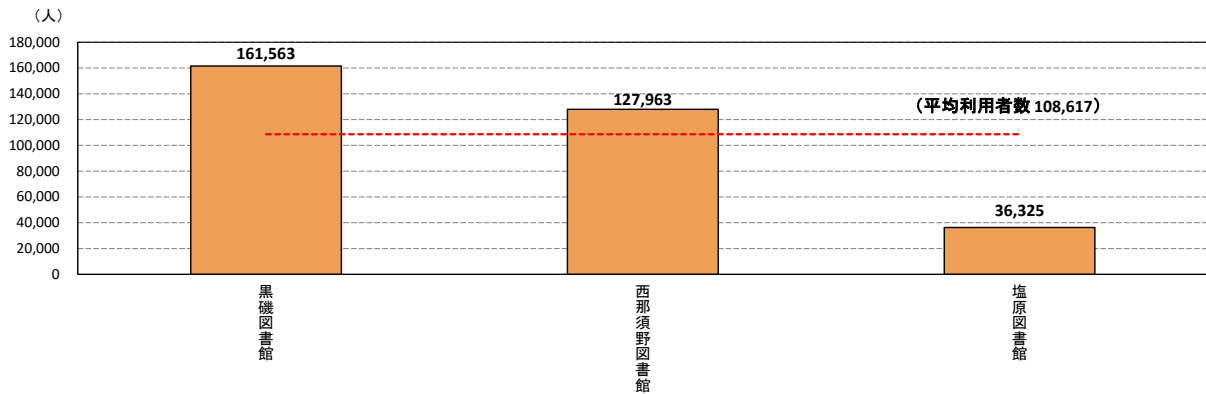
塩原図書館は、帯根地区にある那須塩原市ハロープラザの中に併設された施設で、豊かな自然の中に位置し、市民のくつろぎの施設となっています。

図 4-4-1 図書館の配置状況



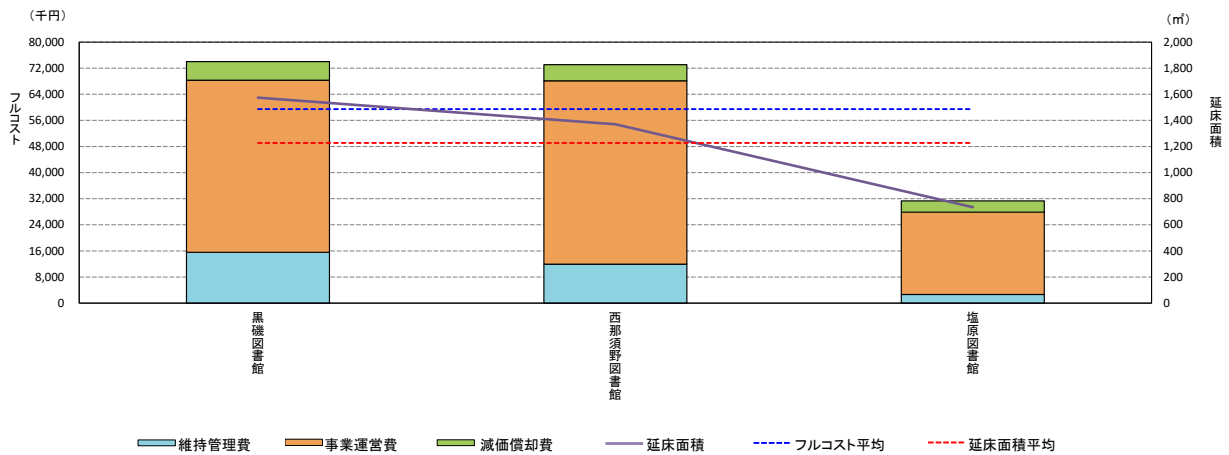
① 〔図書館〕図書館の状況

図 4-4-2 図書館の利用者数(平成 26 年度)



図書館のうち、年間の利用者数が最も多い施設は、黒磯図書館の 161,563 人であり、2 番目は西那須野図書館の 127,963 人です。最も利用者数が少ない施設は、塩原図書館の 36,325 人です。

図 4-4-3 図書館のフルコストと延床面積



図書館のうち、延床面積が最も広いのは、黒磯図書館の 1,575 ㎡であり、2 番目は西那須野図書館の 1,370 ㎡です。また、フルコストが最も高いのは、黒磯図書館の 74,015 千円であり、2 番目は西那須野図書館の 73,063 千円です。

図 4-4-4 図書館の利用者数とフルコスト

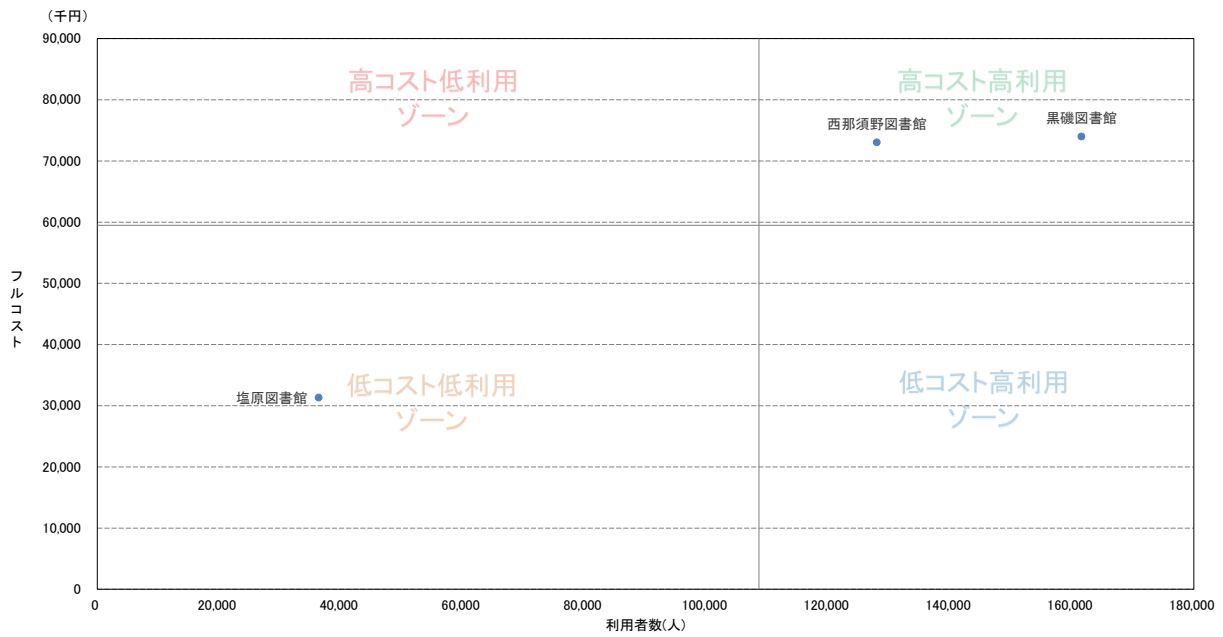
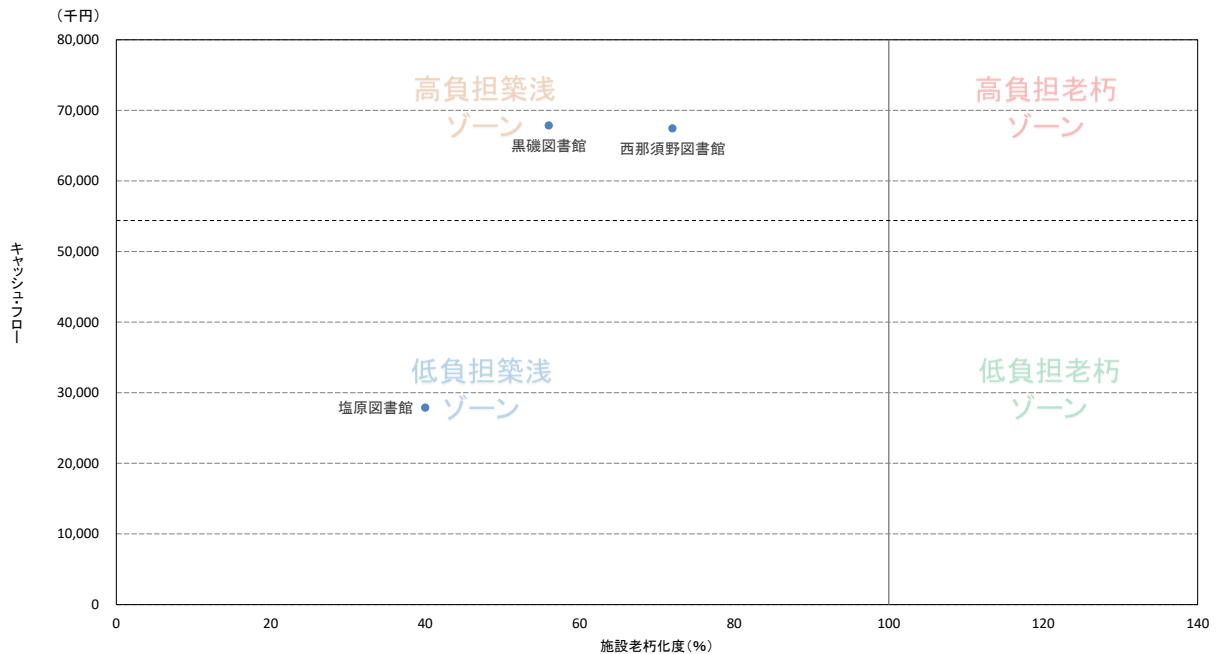


図 4-4-5 図書館のキャッシュ・フローと老朽化度



図書館は、黒磯地域、西那須野地域、箒根地域にそれぞれ 1 施設設置しており、全て指定管理者による管理となっています。

西那須野図書館は老朽化度が 72% となっており老朽化が進んでおり、老朽化対策が必要です。塩原図書館はハロープラザとの複合施設で面積も他の 2 つの図書館に比べると小規模な図書館です。利用者も他の図書館に比べて少ないことから、このスペースを図書館として活用することについては検討の余地がある可能性があります。図書館については、各館の今後の利用者数の動向、各館のあり方、設置すべき地域、指定管理料といった点を踏まえて検討することが必要です。

5 博物館等の状況

表 4-5-1 博物館等の一覧

小分類	地域	No	施設名称	運営主体	複合施設	延床面積(m ²)	老朽化度(%)	主要建物建築年度	主要建物構造
博物館	黒磯	1	黒磯郷土館	直営		387	153.44	昭和 54年度	鉄筋コンクリート
	鍋掛	2	歴史自然学習センター日新の館	直営		415	36.17	平成 9年度	鉄筋コンクリート
	高林	3	板室自然遊学センター	指定管理者		375	55.88	平成 7年度	鉄骨造
	西那須野	4	那須野が原博物館	直営		2,039	22.00	平成 15年度	鉄筋コンクリート
	箒根	5	関谷郷土資料館	直営		237	87.50	平成 5年度	木造
小計						3,453			
その他の社会教育系施設	高林	1	田舎ランド鴨内	直営		1,696	69.05	昭和 62年度	鉄筋コンクリート
小計						1,696			
合計						5,148			

博物館は、市内に 5 施設あり、延床面積は合計 3,453 m²です。

その他の社会教育系施設は、市内に 1 施設あり、延床面積は合計 1,696 m²です。

表 4-5-2 博物館等の利用度とコストの一覧

施設名称	維持管理費(千円)	事業運営費(千円)	コスト(千円)	利用者数(人)	利用者1人当たりのコスト(円/人)	減価償却費(千円)	フルコスト(千円)	利用者1人当たりのフルコスト(円/人)	収入(千円)	ネットコスト収支差額(千円)	指定管理料(千円)
博物館											
黒磯郷土館	2,577	153	2,731	2,531	1,079	395	3,126	1,235	0	3,126	—
歴史自然学習センター日新の館	1,028	2,345	3,374	1,469	2,296	1,232	4,606	3,136	0	4,606	—
板室自然遊学センター	1,483	2,374	3,858	4,879	790	900	4,759	975	0	4,759	4,343
那須野が原博物館	26,710	52,920	79,630	29,110	2,735	5,300	84,931	2,917	2,496	82,434	—
関谷郷土資料館	3,393	49	3,442	9,269	371	596	4,039	435	0	4,039	—
小計	35,193	57,844	93,037	47,258	1,968	8,426	101,463	2,147	2,496	98,967	4,343
その他の社会教育系施設											
田舎ランド鴨内	2,639	12,280	14,919	12,347	1,208	4,881	19,801	1,603	0	19,801	—
小計	2,639	12,280	14,919	12,347	1,208	4,881	19,801	1,603	0	19,801	0
合計	37,832	70,124	107,957	59,605	1,811	13,307	121,264	2,034	2,496	118,768	4,343

博物館の利用者数の合計は 47,258 人です。フルコストは 101,463 千円です。

その他の社会教育系施設の利用者数の合計は 12,347 人です。フルコストは 19,801 千円です。

博物館等は、考古学資料、歴史的遺物、美術品、その他人文、自然に関する学術的資料を収集、保管し、陳列して公衆の展覧に供し、またそれらの資料について調査研究する施設です。

黒磯郷土館は江戸時代後期に建てられた旧津久井家住宅と展示施設からなり、展示施設では主に昭和時代初期に使われていた民具などを展示しています。

日新の館は、奥州街道を中心とする鍋掛地区の歴史や、那須塩原市ゆかりの美術作品などを展示している学習施設です。江戸時代に活躍した杉渡士（現那須塩原市越堀）出身の画家「高久靄厓」の作品を紹介する企画展や、那須野が原博物館所蔵作品展など、年間 5 回程度の展示を開催しています。

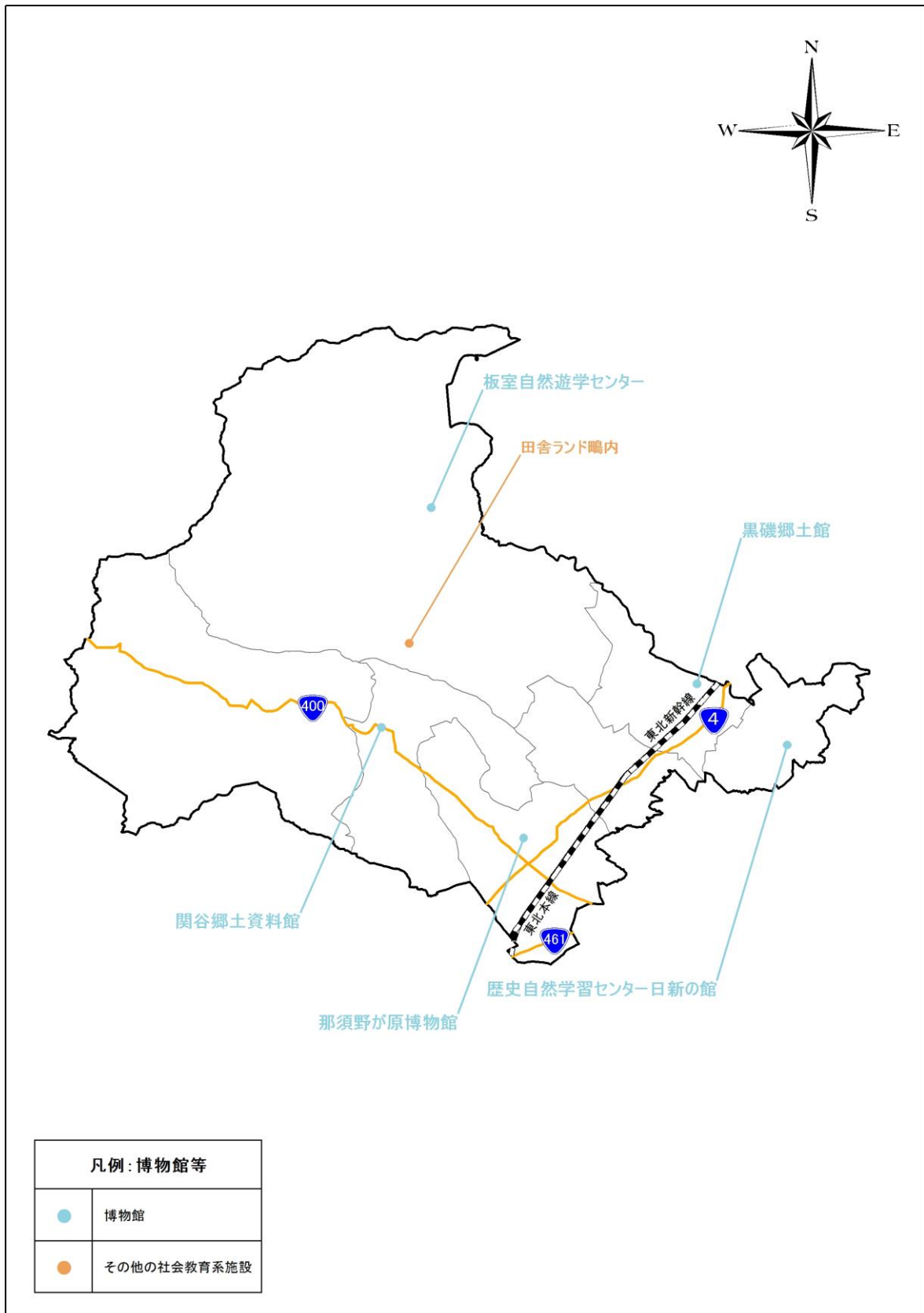
板室自然遊学センターは板室と奥那須の自然と歴史を紹介する展示館です。展示スペースにはジオラマや模型などが並び、楽しみながら学ぶことができます。

那須野が原博物館は、那須塩原市域及び那須野が原をフィールドとし、歴史・民俗・考古・美術・自然・文学の各分野を対象とする総合博物館として活動を展開しています。

関谷郷土資料館は建物そのものを展示物とし、江戸時代末期から昭和初期のころの民具や資料等の展示を行っています。

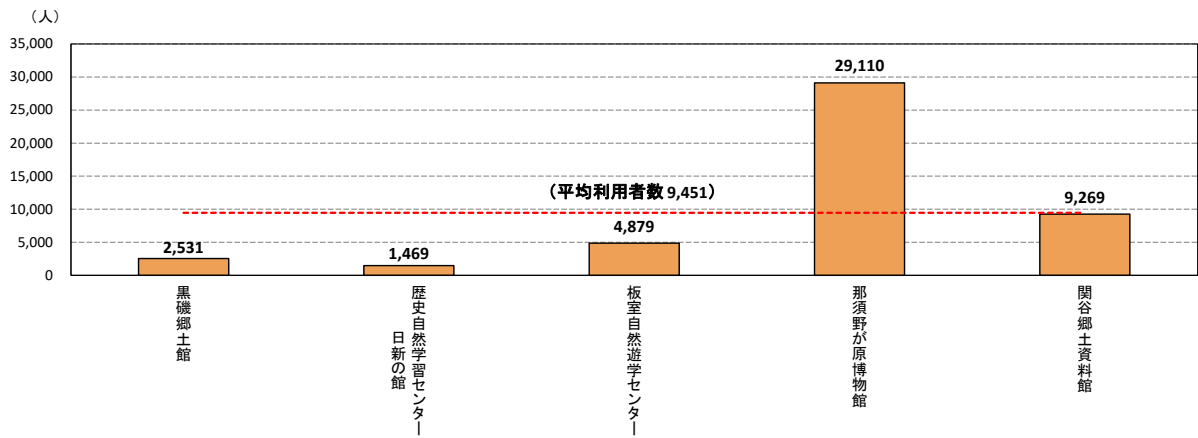
その他の社会教育系施設である田舎ランド鴨内は、様々な体験が出来る施設に加え、近隣の野外フィールドを、子供の居場所・ボランティア活動の場・生涯学習の場として、人と人との交流をおし、こころ豊かな人間、そして地域を育むための施設です。土日休日には、農林業体験、遊び、地元との交流事業、各種教室、ボランティア団体との共催事業等を実施しています。子供会育成会や自主グループなどの活動の場としてもご利用いただけます。また、周辺には、ハイキングや植物観察、パラグライダーの離着陸をする場所もあり、自然を満喫できます。

図 4-5-1 博物館等の配置状況



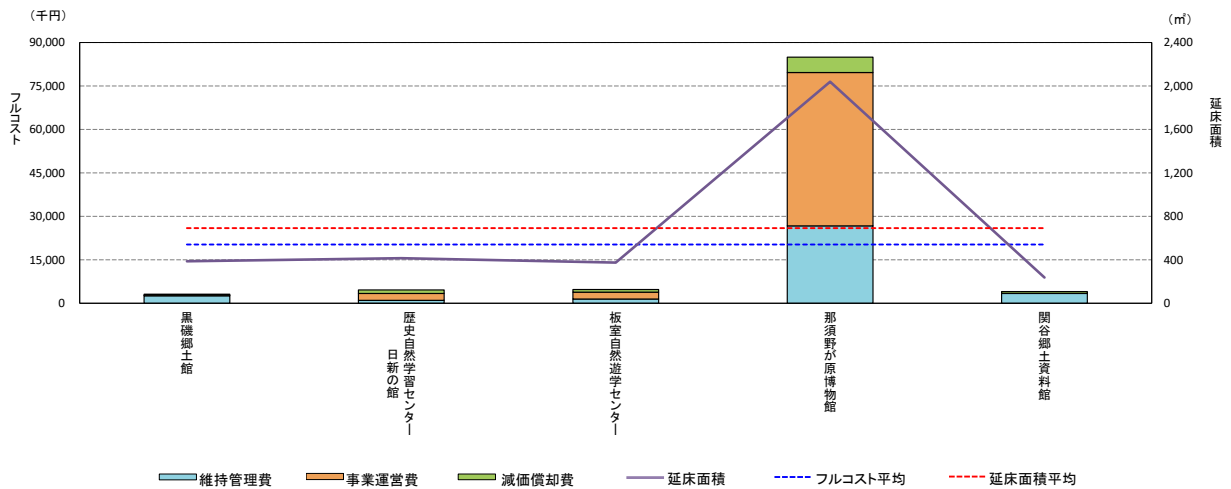
① 〔博物館等〕博物館の状況

図 4-5-2 博物館の利用者数(平成 26 年度)



博物館のうち、年間の利用者数が最も多い施設は、那須野が原博物館の 29,110 人であり、2 番目は関谷郷土資料館の 9,269 人です。最も利用者数が少ない施設は、歴史自然学習センター日新の館の 1,469 人であり、2 番目は黒磯郷土館の 2,531 人です。

図 4-5-3 博物館のフルコストと延床面積



博物館のうち、延床面積が最も広いのは、那須野が原博物館の 2,039 ㎡であり、2 番目は歴史自然学習センター日新の館の 415 ㎡です。また、フルコストが最も高いのは、那須野が原博物館の 84,931 千円であり、2 番目は板室自然遊学センターの 4,759 千円です。

図 4-5-4 博物館の利用者数とフルコスト

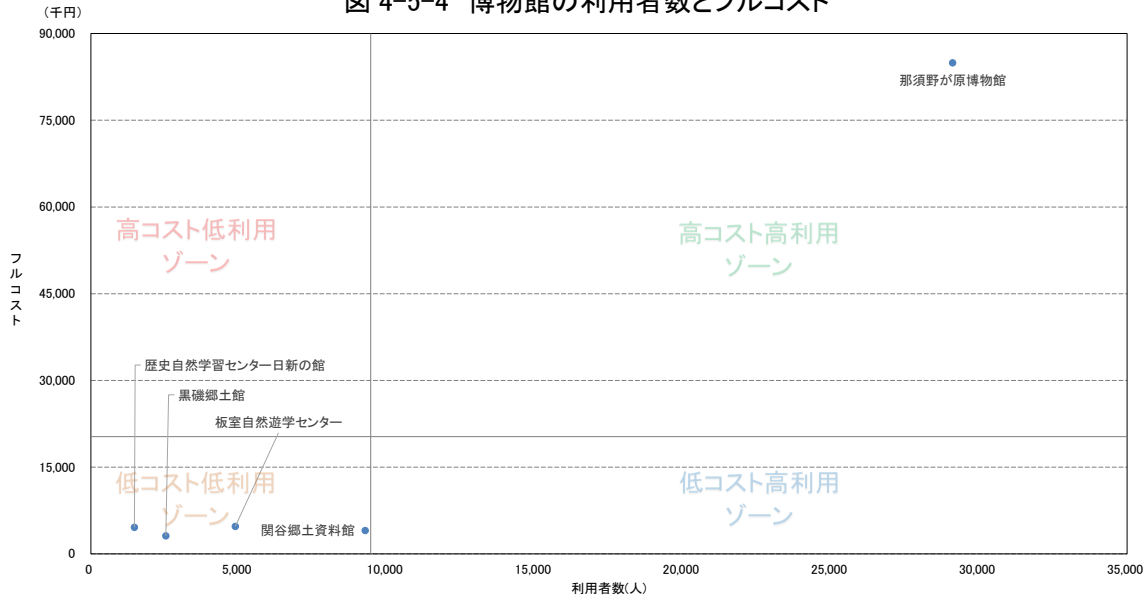
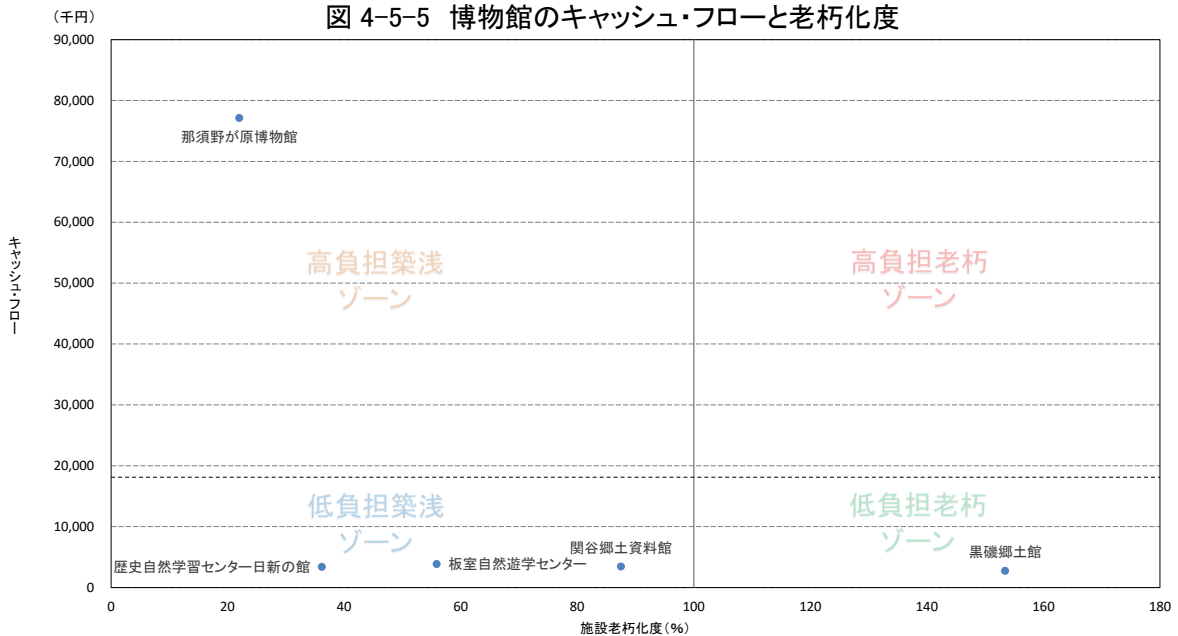


図 4-5-5 博物館のキャッシュ・フローと老朽化度



博物館は本市に5施設あり、板室自然遊学センターのみ指定管理者による管理で、その他は本市の直営です。

黒磯郷土館は昭和54年度に建築されており、耐用年数が到来していますので今後も適切な維持・管理が必要です。また、那須野が原博物館以外の施設については、単独施設ですが、利用者が少ない状況となっています。これらの施設については、施設の有効利用の観点からの検討が必要です。

② 〔博物館等〕 その他の社会教育系施設の状況

田舎ランド嶋内の年間の利用者数は12,347人です。また、延床面積は1,696㎡で、フルコストは19,801千円です。

田舎ランド嶋内は、昭和62年度に建築され、老朽化度は70%近くまで進行しています。老朽化対策にあたっては、利用者数の推移も踏まえ、今後の施設のあり方も含めた検討が必要です。

6 スポーツ施設の状況

表 4-6-1 スポーツ施設の一覧

小分類	地域	No	施設名称	運営主体	複合施設	延床面積 (㎡)	老朽化度 (%)	主要建物建築年度	主要建物構造
運動場	黒磯	1	くろいそ運動場	指定管理者		4,249	97.26	昭和 51年度	鉄筋コンクリート
	高林	2	青木サッカー場	指定管理者		3,127	92.46	昭和 63年度	鉄骨造
	西那須野	3	にしなすの運動公園	指定管理者		6,066	36.69	平成 9年度	鉄筋コンクリート
	西那須野	4	三島体育センター	指定管理者		3,421	84.89	昭和 49年度	鉄筋コンクリート
	塩原	5	塩原B&G海洋センター	指定管理者		1,867	42.84	平成 6年度	鉄筋コンクリート
小計						18,731			
プール	黒磯	1	那珂川河畔公園プール	指定管理者		249	10.25	平成 21年度	鉄筋コンクリート
	西那須野	2	にしなすの運動公園プール	指定管理者		1,878	34.00	平成 9年度	鉄筋コンクリート
	塩原	3	塩原B&G海洋センタープール	指定管理者		875	42.55	平成 6年度	鉄骨鉄筋コンクリート
小計						3,002			
合計						21,733			

運動場は、市内に 5 施設あり、延床面積は合計 18,731 ㎡です。

プールは、市内に 3 施設あり、延床面積は合計 3,002 ㎡です。

表 4-6-2 スポーツ施設の利用度とコストの一覧

施設名称	維持管理費 (千円)	事業運営費 (千円)	コスト (千円)	利用者数 (人)	利用者1人当たりのコスト (円/人)	減価償却費 (千円)	フルコスト (千円)	利用者1人当たりのフルコスト (円/人)	収入 (千円)	ネットコスト収支差額 (千円)	指定管理料 (千円)
運動場											
くろいそ運動場	15,400	44,130	59,531	124,692	477	4,409	63,941	512	12,926	51,014	44,029
青木サッカー場	2,574	16,762	19,337	55,945	345	5,621	24,958	446	4,776	20,181	18,504
にしなすの運動公園	17,600	15,970	33,570	119,126	281	22,698	56,269	472	8,719	47,549	30,540
三島体育センター	9,410	18,711	28,121	99,738	281	11,595	39,716	398	6,640	33,075	26,455
塩原B&G海洋センター	7,547	9,786	17,333	13,940	1,243	7,333	24,666	1,769	5,754	18,912	16,829
小計	52,532	105,360	157,893	413,441	381	51,658	209,551	506	38,816	170,734	136,359
プール											
那珂川河畔公園プール	878	5,164	6,042	6,600	915	896	6,938	1,051	967	5,971	5,841
にしなすの運動公園プール	25,193	24,599	49,792	30,633	1,625	6,759	56,552	1,846	7,319	49,232	45,810
塩原B&G海洋センタープール	3,332	4,308	7,640	4,239	1,802	4,523	12,164	2,869	305	11,858	7,213
小計	29,403	34,072	63,476	41,472	1,530	12,179	75,655	1,824	8,593	67,062	58,864
合計	81,936	139,433	221,369	454,913	486	63,837	285,207	626	47,409	237,797	195,223

運動場の利用者数の合計は 413,441 人です。フルコストは 209,551 千円です。

プールの利用者数の合計は 41,472 人です。フルコストは 75,655 千円です。

くろいそ運動場は、野球場、サッカー場、テニスコート、体育館、武道館などを有しており様々なスポーツを行うことができます。

青木サッカー場は、人工芝のグラウンド 2 箇所と天然芝のグラウンド 1 箇所、体育館を 1 箇所有しており、サッカーの練習に適した運動場です。

にしなすの運動公園は、体育館にトレーニングルームなどを有しており、幅広くスポーツを楽しむことができます。

三島体育センターは、体育館・武道館・グラウンド・テニスコートを有しています。

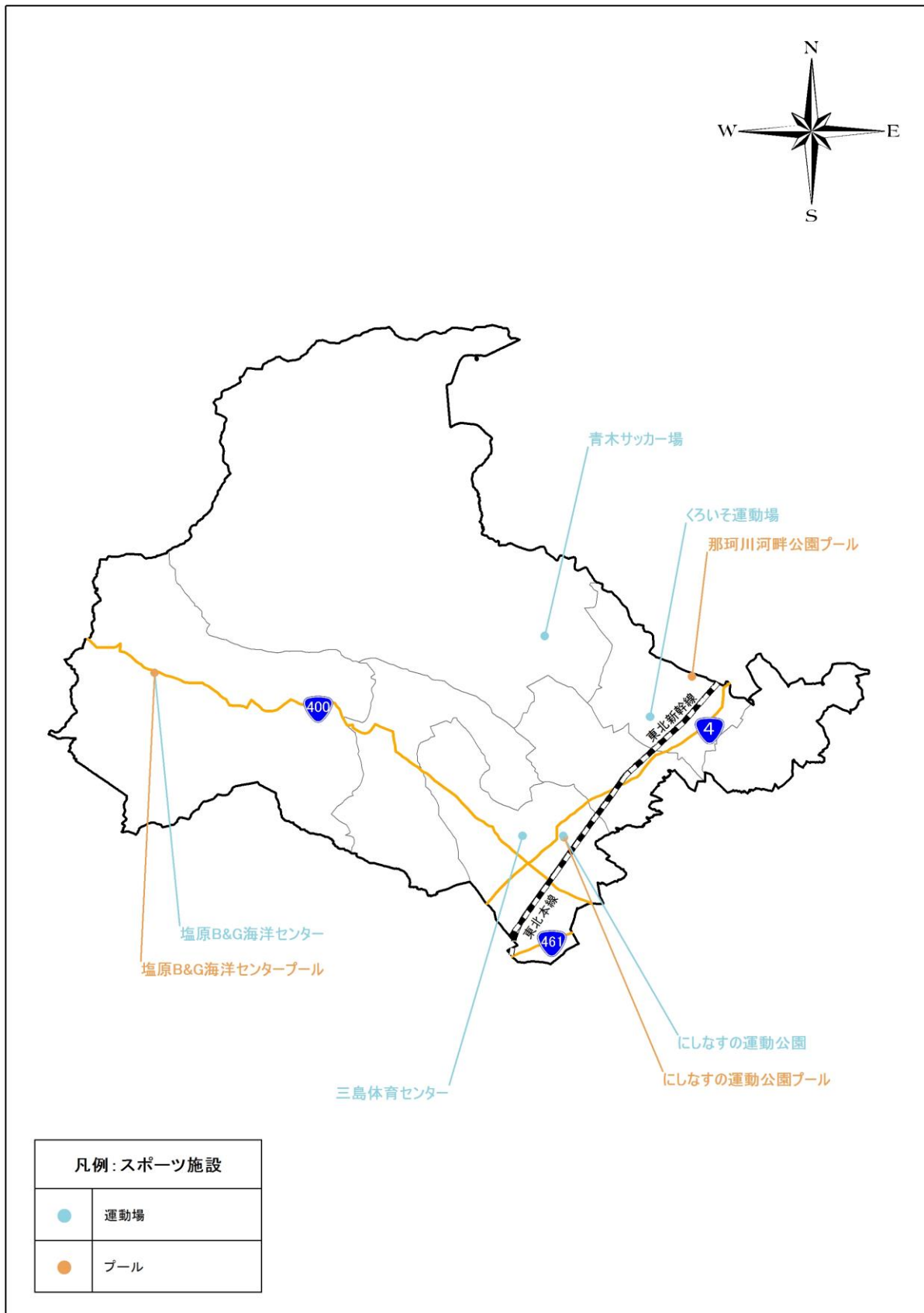
塩原 B&G 海洋センターでは、季節により体育館での運動教室などが行われています。

那珂川河畔公園プールは、那珂川河畔公園内にあるプールです。7月から8月までの夏の間にご利用できます。

にしなすの運動公園プールは、25メートル×7コースのプールと幼児プール、ジャグジープールなどを有しています。

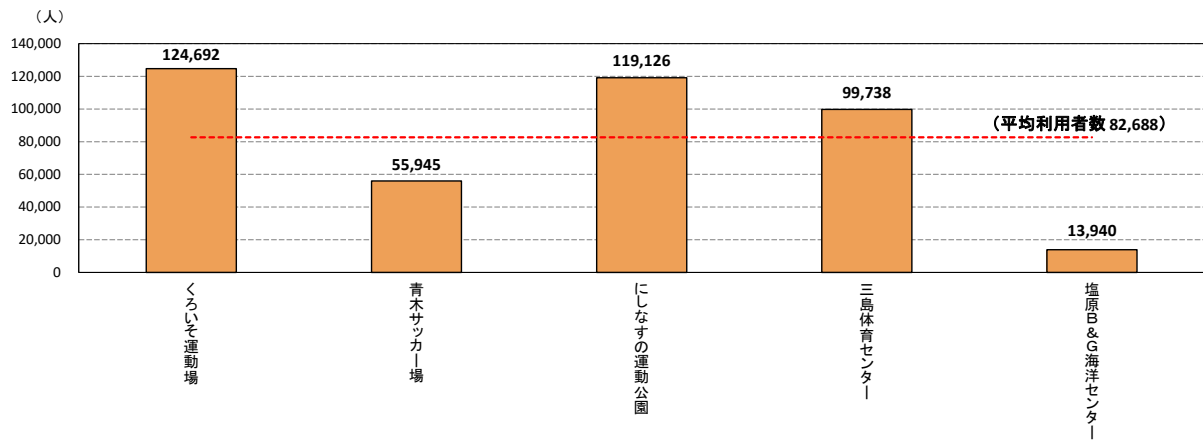
塩原 B&G 海洋センタープールでは水泳教室や水中運動教室などが行われています。

図 4-6-1 スポーツ施設の配置状況



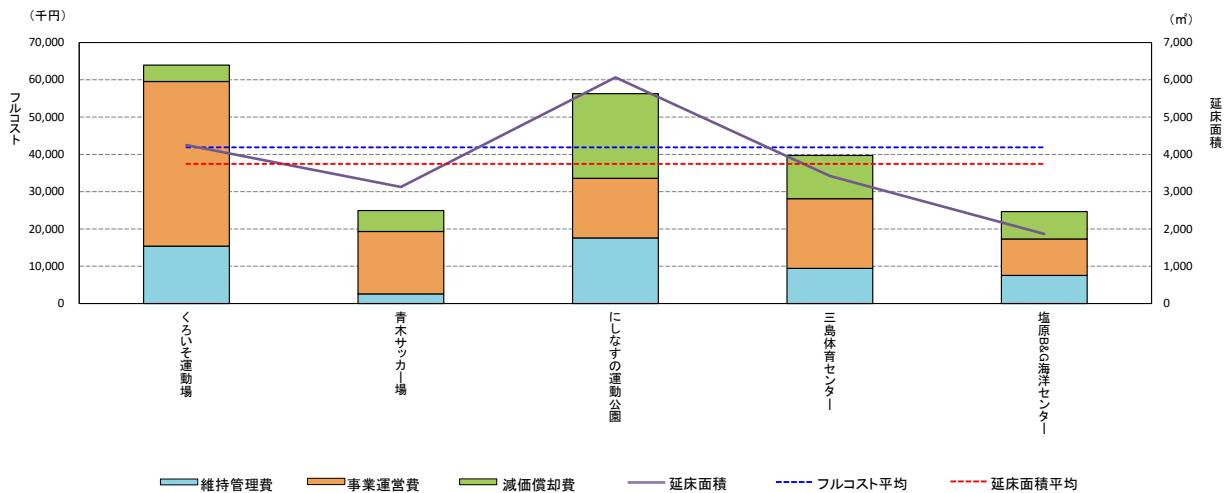
① [スポーツ施設] 運動場の状況

図 4-6-2 運動場の利用者数(平成 26 年度)



運動場のうち、年間の利用者数が最も多い施設は、くろいそ運動場の 124,692 人であり、2 番目はにしなすの運動公園の 119,126 人です。最も利用者数が少ない施設は、塩原 B&G 海洋センターの 13,940 人であり、2 番目は青木サッカー場の 55,945 人です。

図 4-6-3 運動場のフルコストと延床面積



運動場のうち、延床面積が最も広いのは、にしなすの運動公園の 6,066 ㎡であり、2 番目はくろいそ運動場の 4,249 ㎡です。また、フルコストが最も高いのは、くろいそ運動場の 63,941 千円であり、2 番目はにしなすの運動公園の 56,269 千円です。

図 4-6-4 運動場の利用者数とフルコスト

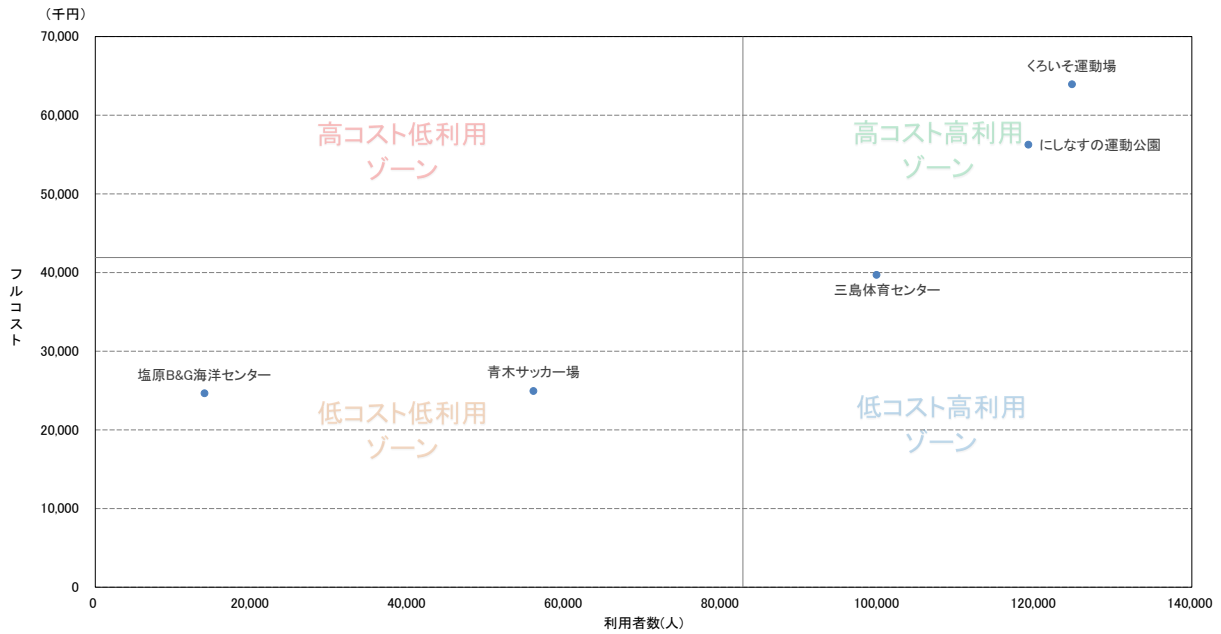
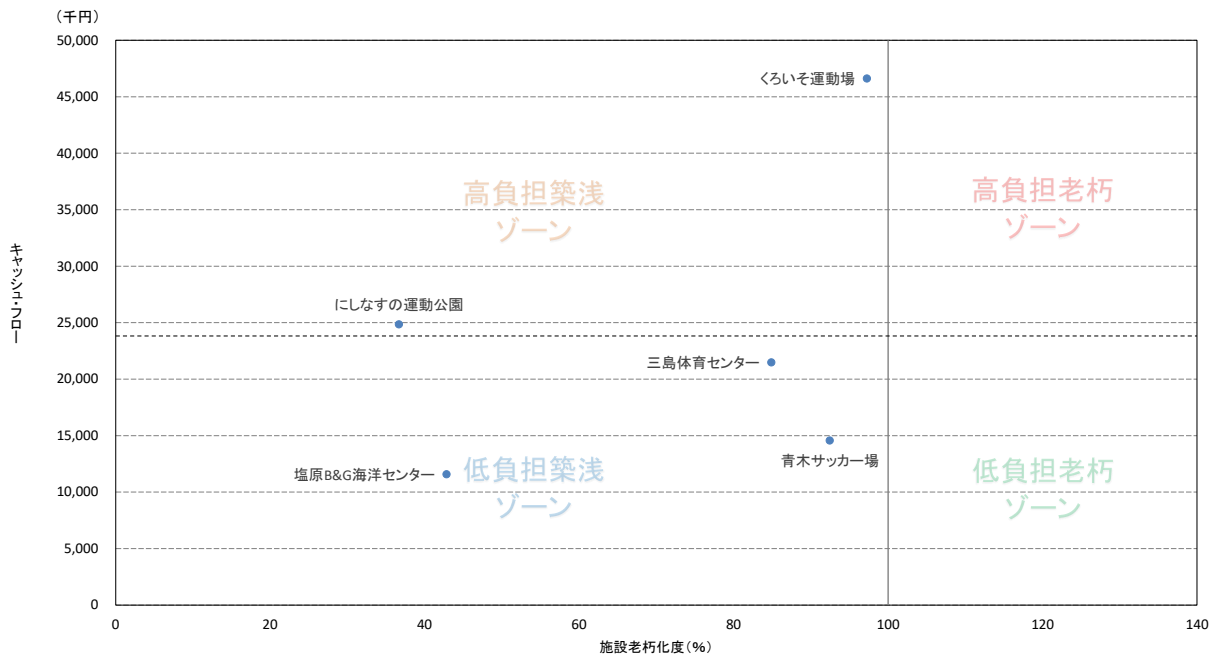


図 4-6-5 運動場のキャッシュ・フローと老朽化度



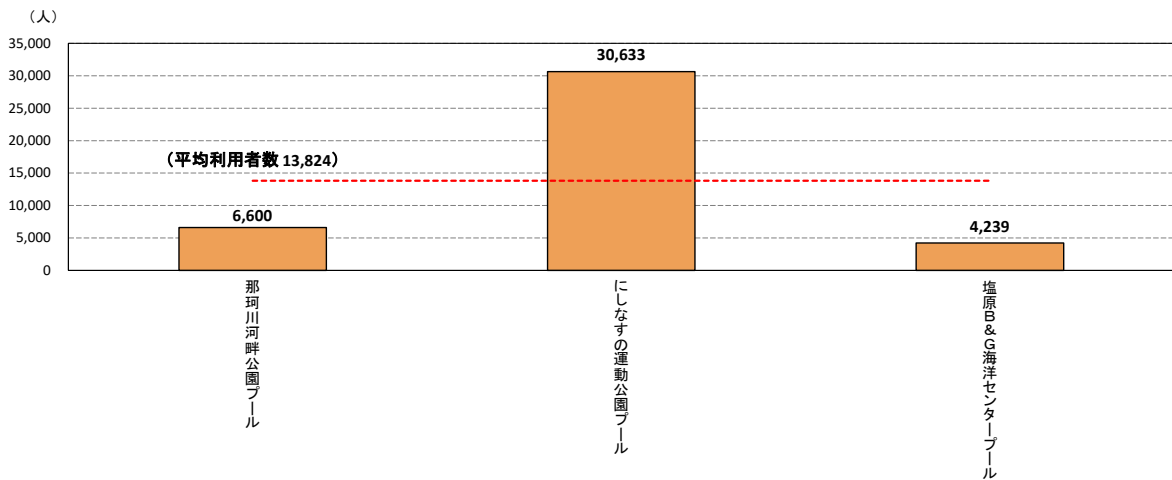
運営は全施設が指定管理者で運営されております。くろいそ運動場や三島体育センターは昭和50年前後に建築されており、青木サッカー場敷地内にある体育館は昭和63年度の建築であり、老朽化が進行しています。

くろいそ運動場は、野球場、テニスコート、体育館、武道館、にしなすの運動公園は体育館、トレーニングルーム、多目的広場といったように、いろいろな施設が揃った総合運動施設であるため、利用者数が多いですが、その分キャッシュ・フローが他の運動場に比べて高額になっていますので、老朽化対策に加えてコスト面での運営効率化についても検討する必要があります。

老朽化対応にあたっては、これらの施設の今後の利用状況等を踏まえて検討することが必要です。

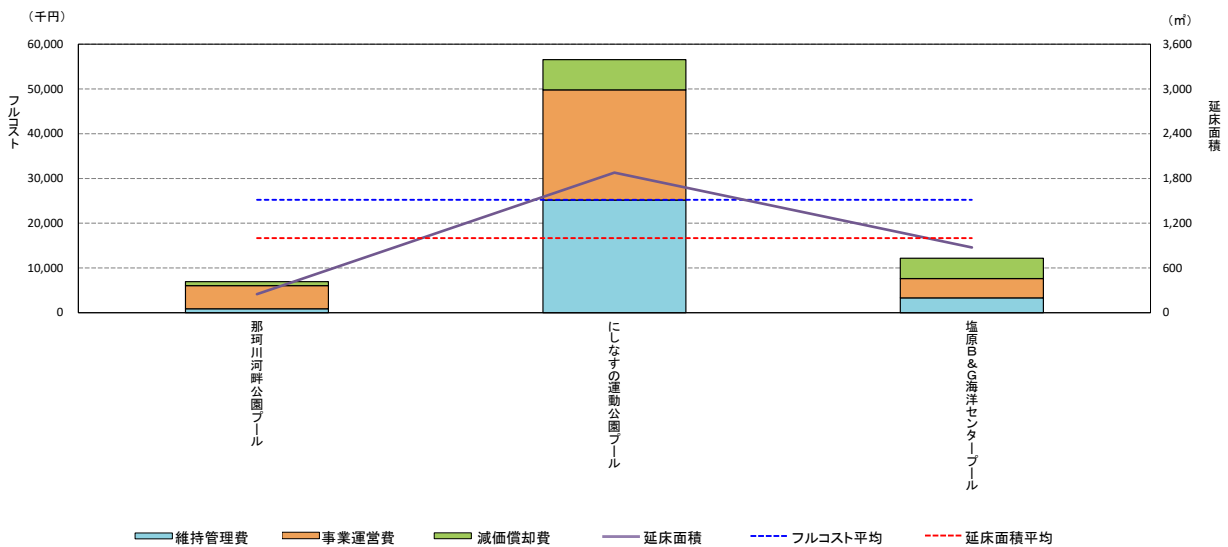
② 【スポーツ施設】プールの状況

図 4-6-6 プールの利用者数(平成 26 年度)



プールのうち、年間の利用者数が最も多い施設は、にしなすの運動公園プールの 30,633 人であり、2 番目は那珂川河畔公園プールの 6,600 人です。最も利用者数が少ない施設は、塩原 B&G 海洋センタープールの 4,239 人です。

図 4-6-7 プールのフルコストと延床面積



プールのうち、延床面積が最も広いのは、にしなすの運動公園プールの 1,878 ㎡であり、2 番目は塩原 B&G 海洋センタープールの 875 ㎡です。また、フルコストが最も高いのは、にしなすの運動公園プールの 56,552 千円であり、2 番目は塩原 B&G 海洋センタープールの 12,164 千円です。

図 4-6-8 プールの利用者数とフルコスト

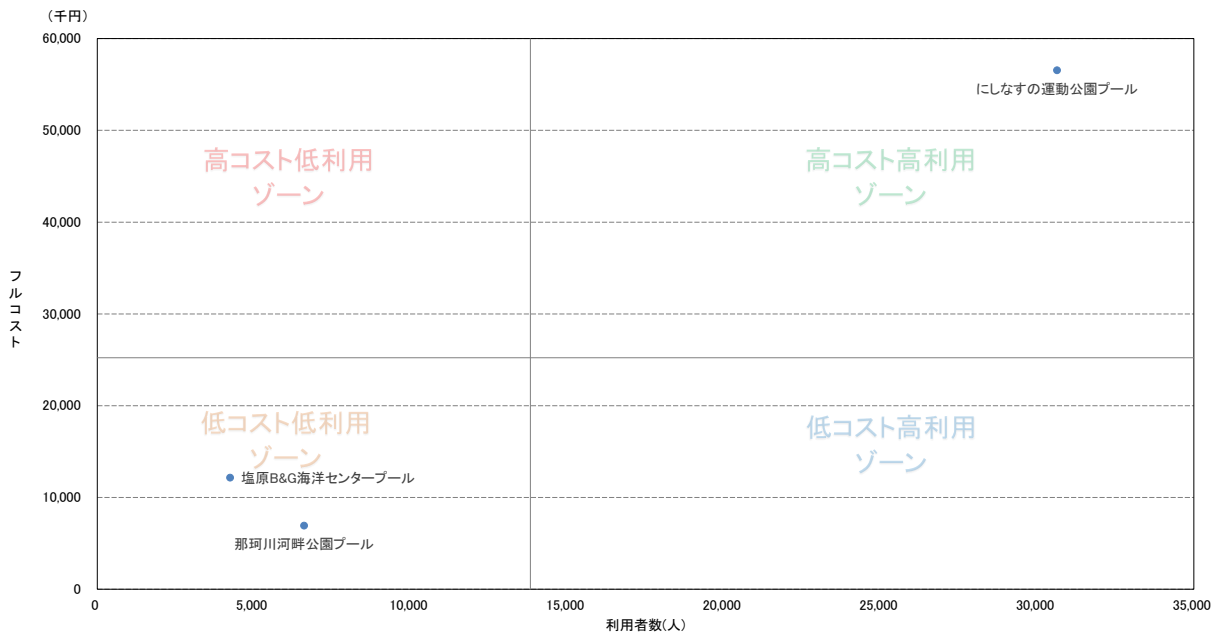
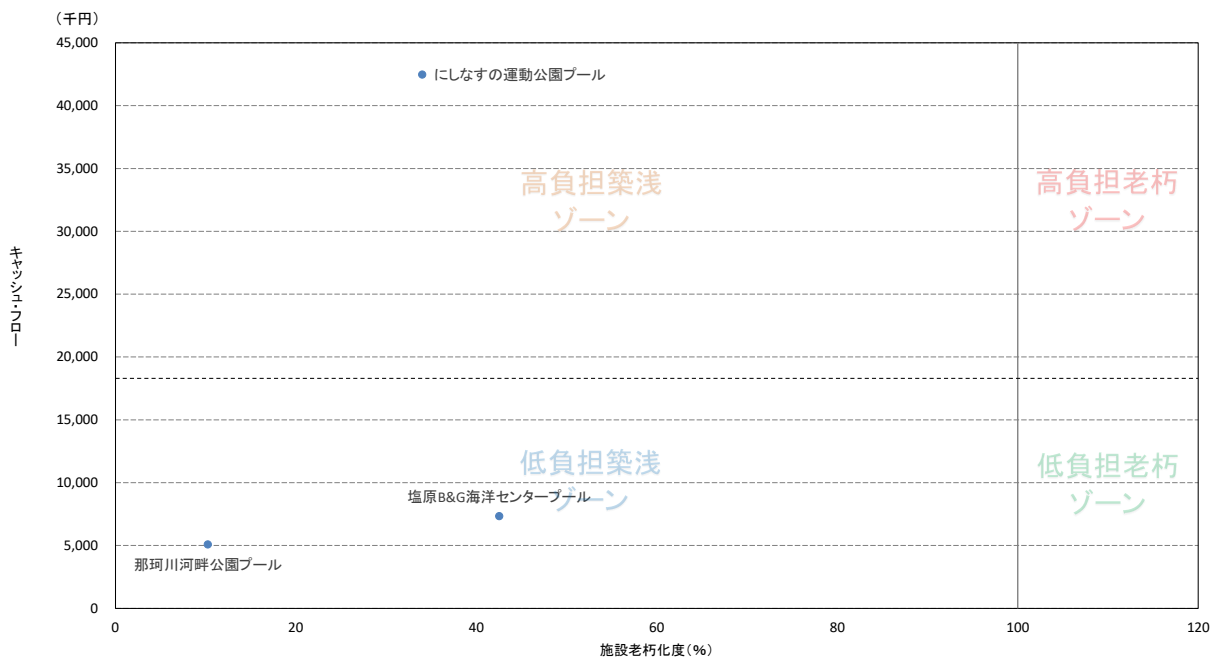


図 4-6-9 プールのキャッシュ・フローと老朽化度



プールについては市内に3施設あり、全て指定管理者による運営となっています。にしなすの運動公園プールは、キャッシュ・フローが大きく、コスト面で運営方法などの検討の必要があります。

那珂川河畔公園プールの利用者数が6,600人になっていますが、当プールは夏休みの期間のみ開設されている屋外プールです。塩原B&G海洋センタープールは利用者数が少ないことから、利用者数を増やす対策が必要です。

7 レクリエーション施設・観光施設の状況

表 4-7-1 レクリエーション施設・観光施設の一覧

小分類	地域	No	施設名称	運営主体	複合施設	延床面積 (㎡)	老朽化度 (%)	主要建物建築年度	主要建物構造
観光施設	高林	1	板室健康のゆグリーングリーン	指定管理者		1,102	84.18	平成 6年度	木造
	西那須野	2	那須疏水水車	直営		22	66.67	平成 16年度	木造
	塩原	3	箱の森プレイパーク	指定管理者		2,409	93.59	昭和 63年度	木造
	塩原	4	塩原もの語り館	指定管理者		966	18.01	平成 17年度	鉄筋コンクリート
	塩原	5	塩原温泉湯っ歩の里	指定管理者		860	36.36	平成 18年度	木造
	塩原	6	華の湯	指定管理者		515	47.06	平成 10年度	鉄骨造
	塩原	7	塩原温泉観光交流室	直営		214	76.32	昭和 60年度	鉄骨造
小計						6,088			
合計						6,088			

観光施設は、市内に 7 施設あり、延床面積は合計 6,088 ㎡です。

表 4-7-2 レクリエーション施設・観光施設の利用度とコストの一覧

施設名称	維持管理費 (千円)	事業運営費 (千円)	コスト (千円)	利用者数 (人)	利用者 1人当たりのコスト (円/人)	減価償却費 (千円)	フルコスト (千円)	利用者 1人当たりのフルコスト (円/人)	収入 (千円)	ネットコスト収支差額 (千円)	指定管理料 (千円)
観光施設											
板室健康のゆグリーングリーン	20,851	16,377	37,229	91,822	405	4,237	41,466	451	18,089	23,376	42,297
那須疏水水車	503	322	825	—	—	88	913	—	0	913	—
箱の森プレイパーク	14,429	44,658	59,088	8,084	7,309	4,204	63,293	7,829	8,247	55,045	60,228
塩原もの語り館	12,616	13,404	26,020	136,817	190	3,475	29,496	215	43,281	-13,784	23,760
塩原温泉湯っ歩の里	5,821	13,096	18,918	52,687	359	3,560	22,479	426	9,716	12,762	24,582
華の湯	22,558	13,427	35,985	30,507	1,179	1,081	37,067	1,215	13,782	23,285	38,468
塩原温泉観光交流室	869	374	1,243	—	—	519	1,762	—	0	1,762	—
小計	77,649	101,661	179,311	319,917	560	17,168	196,480	614	93,116	103,363	189,336
合計	77,649	101,661	179,311	319,917	560	17,168	196,480	614	93,116	103,363	189,336

観光施設の利用者数の合計は 319,917 人です。フルコストは 196,480 千円です。

板室健康のゆグリーングリーンは、板室温泉にある日帰り温泉入浴施設です。「下野の薬湯」として知られる板室のお湯を手頃な料金で楽しめます。平成 6 年 9 月のオープン以来、多くの観光客や地元住民に利用されています。梁から下がる綱につかまりながら腰より深い浴槽につかる名物露天風呂「綱の湯」はかつての板室共同浴場を再現したものです。

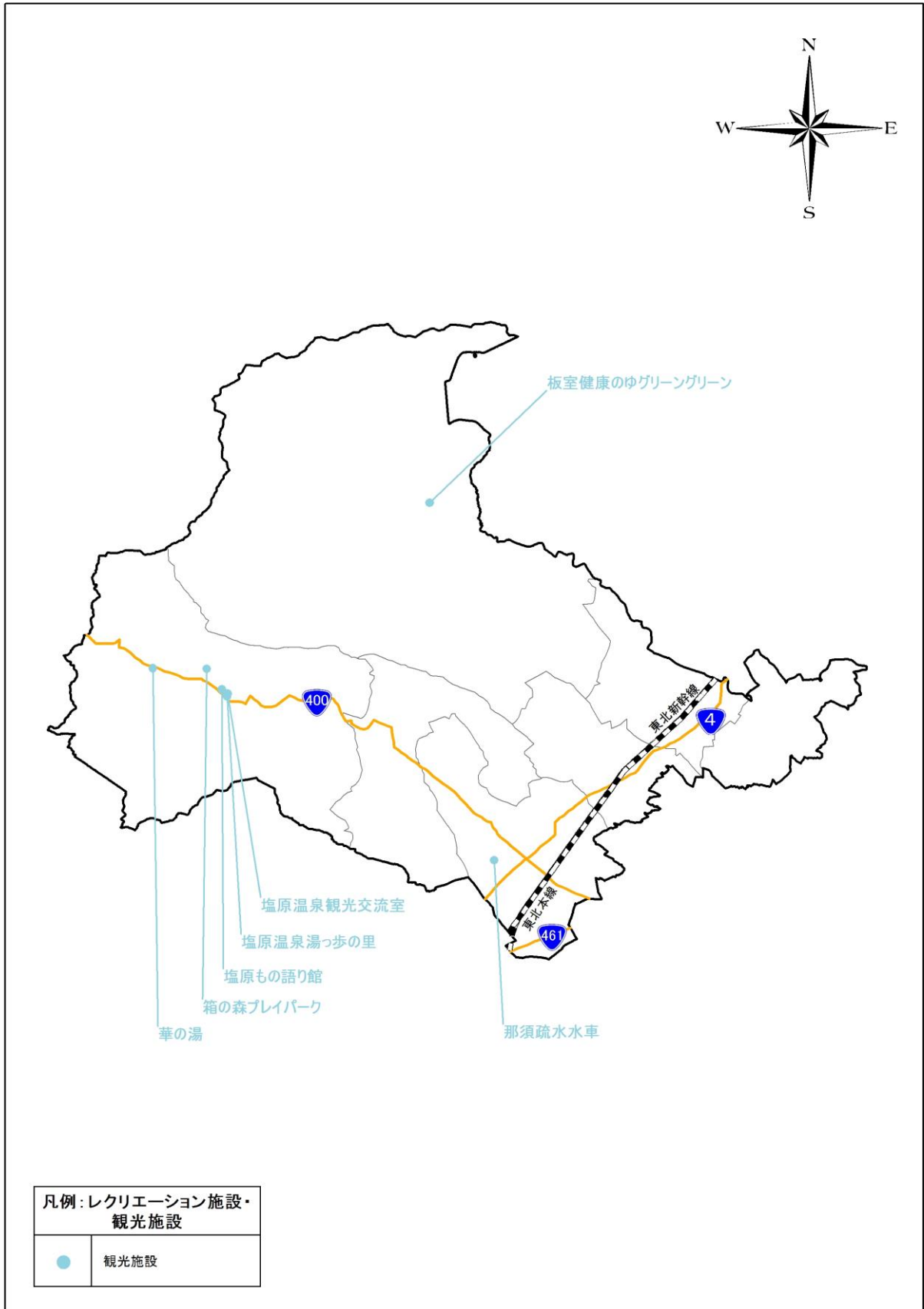
箱の森プレイパークは、自然をありのままに活かした施設で、アスレチック広場やサイクリングロードなどを備えています。ほかにも陶芸教室や木工教室なども開かれます。

塩原もの語り館は、塩原温泉の見どころ、食べどころ、温泉など観光情報全般をご案内している観光情報コーナーや、塩原自慢の高原野菜をはじめ、みずみずしい採れたて野菜・山菜が並ぶ直売所、文学作品の裏側にある文人と塩原との出会いのもの語りを訪ねることができる歴史と文化の atrium 資料展示室などを備えています。

塩原温泉湯っ歩の里は、塩原温泉の湯量の豊富さ、自然の豊かさを広く国内外にアピールする足湯施設として、平成18年8月1日にオープンしました。

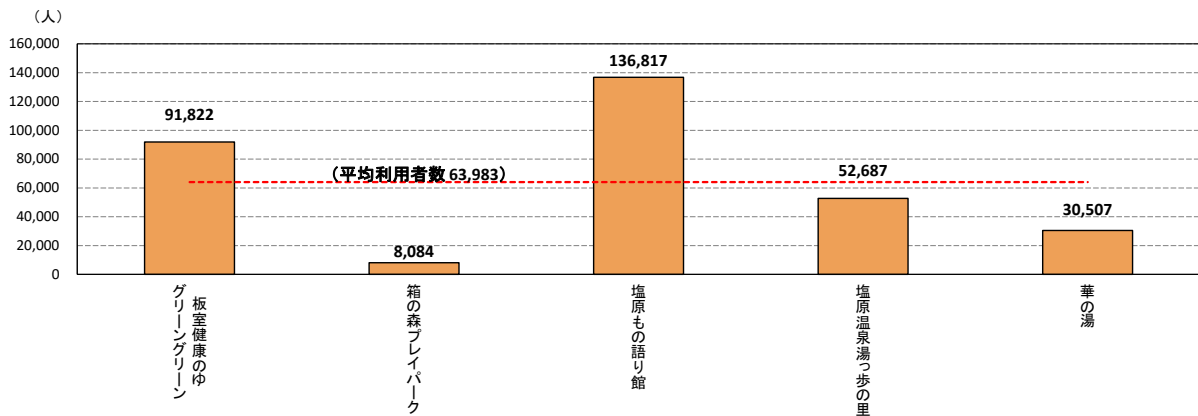
華の湯は、どなたにもお気軽に塩原の温泉をお楽しみいただけるよう、内湯・露天風呂、サウナ、軽食コーナーや休憩室のほかバスタオル一枚でくつろげるリラックスルーム、女性にはうれしいパウダールームなどを完備しています。

図 4-7-1 レクリエーション施設・観光施設の配置状況



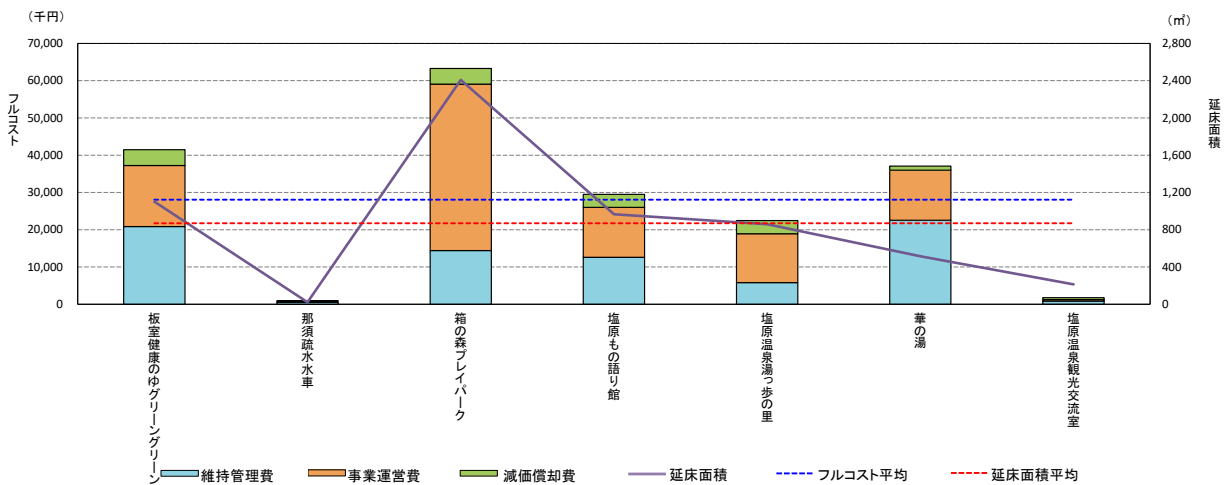
① 〔レクリエーション施設・観光施設〕 観光施設の状況

図 4-7-2 観光施設の利用者数(平成 26 年度)



観光施設のうち、年間の利用者数が最も多い施設は、塩原もの語り館の 136,817 人であり、2 番目は板室健康のゆグリーングリーンの 91,822 人です。最も利用者数が少ない施設は、箱の森プレイパークの 8,084 人であり、2 番目は華の湯の 30,507 人です。

図 4-7-3 観光施設のフルコストと延床面積



観光施設のうち、延床面積が最も広いのは、箱の森プレイパークの 2,409 ㎡であり、2 番目は板室健康のゆグリーングリーンの 1,102 ㎡です。また、フルコストが最も高いのは、箱の森プレイパークの 63,293 千円であり、2 番目は板室健康のゆグリーングリーンの 41,466 千円です。

図 4-7-4 観光施設の利用者数とフルコスト

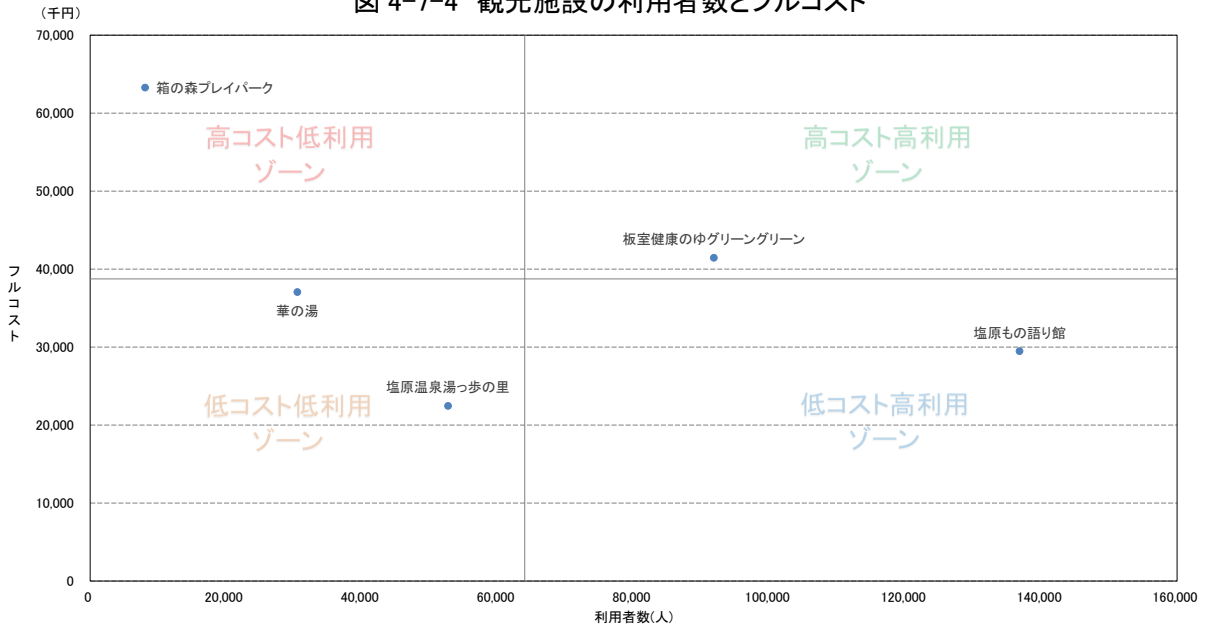
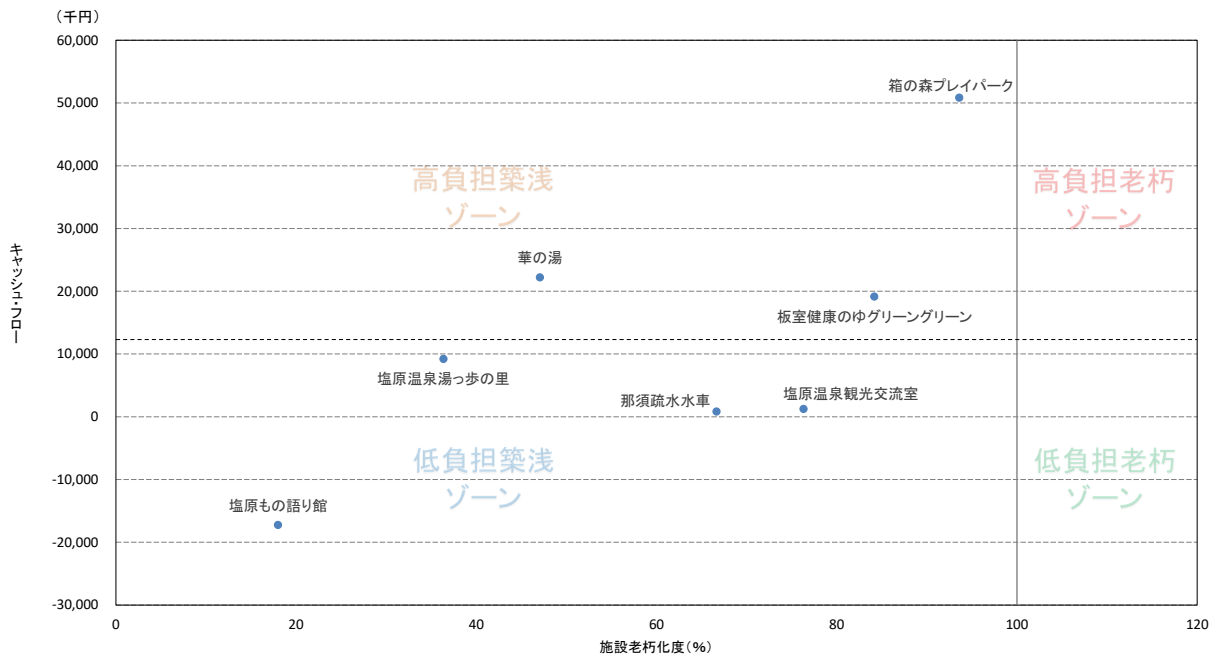


図 4-7-5 観光施設のキャッシュ・フローと老朽化度



レクリエーション施設・観光施設は市内に7施設設置しております。5施設は指定管理者で運営されており、残りの2施設は本市の直営で行われています。本市の観光名所である塩原温泉に関する施設が多くを占めています。

箱の森プレイパーク、板室健康のゆグリーングリーン及び塩原温泉観光交流室は、老朽化度が80%から90%程度となっており、老朽化が進んでいます。その他の施設は、比較的近年に建築された施設であり、現時点で老朽化対策が急務という状況ではありません。

塩原温泉については、老朽化対策と合わせて、観光客誘致策の検討も進めていく必要があります。老朽化した施設については、建替えを行って施設のリニューアルを図ることも必要であると考えられることから、観光客誘致と老朽化対策という両面から検討を進めることが必要です。

8 産業系施設の状況

表 4-8-1 産業系施設の一覧

小分類	地域	No	施設名称	運営主体	複合施設	延床面積(m ²)	老朽化度(%)	主要建物建築年度	主要建物構造
物産センター	高林	1	青木ふるさと物産センター	指定管理者		246	70.83	平成9年度	木造
	箒根	2	地域資源総合管理施設	指定管理者		1,372	39.96	平成8年度	鉄筋コンクリート
小計						1,618			
放牧場	塩原	1	八郎ヶ原放牧場	指定管理者		385	94.26	平成26年度	木造
小計						385			
合計						2,003			

物産センターは、市内に2施設あり、延床面積は合計1,618㎡です。

放牧場は、市内に1施設あり、延床面積は合計385㎡です。

表 4-8-2 産業系施設の利用度とコストの一覧

施設名称	維持管理費(千円)	事業運営費(千円)	コスト(千円)	利用者数(人)/預託頭数(頭)	利用者等当たりのコスト(円/人)(円/頭)	減価償却費(千円)	フルコスト(千円)	利用者等当たりのフルコスト(円/人)(円/頭)	収入(千円)	ネットコスト収支差額(千円)	指定管理料(千円)
物産センター											
青木ふるさと物産センター	13,500	6,588	20,089	—	—	619	20,708	—	15,099	5,608	1,866
地域資源総合管理施設	19,380	16,061	35,442	—	—	4,896	40,339	—	8,512	31,826	21,000
小計	32,881	22,650	55,531	0	0	5,516	61,047	0	23,612	37,435	22,866
放牧場											
八郎ヶ原放牧場	327	7,233	7,560	38	198,947	870	8,430	221,854	2,126	6,303	7,560
小計	327	7,233	7,560	38	198,947	870	8,430	221,854	2,126	6,303	7,560
合計	33,208	29,883	63,091	38	1,660,303	6,386	69,478	1,828,376	25,739	43,738	30,426

物産センターにかかるフルコストは61,047千円です。

放牧場の預託頭数の合計は38頭です。フルコストは8,430千円です。

物産センターとは、農産物直売所など、地元野菜や市内で製造された加工品の販売などを行っている産業系施設です。

青木ふるさと物産センターは、道の駅「明治の森・黒磯」の中に有り、ファームマーケットとして、四季折々の新鮮な地元野菜や果物、市内の養鶏場からの産みたて卵、漬物、牛乳・チーズなどの乳製品や、地元のお酒、那須塩原市内で製造されたハムやベーコン、お米などを販売しています。また、ファームレストランとして、地元の食材を利用した各種パスタやピザのセット、ジェラートやスイーツなどを楽しめます。

地域資源総合管理施設は、アグリパル塩原の名前で親しまれており、農産物直売所では地元で栽培された活きの良い新鮮野菜を、畑から直送して販売しています。

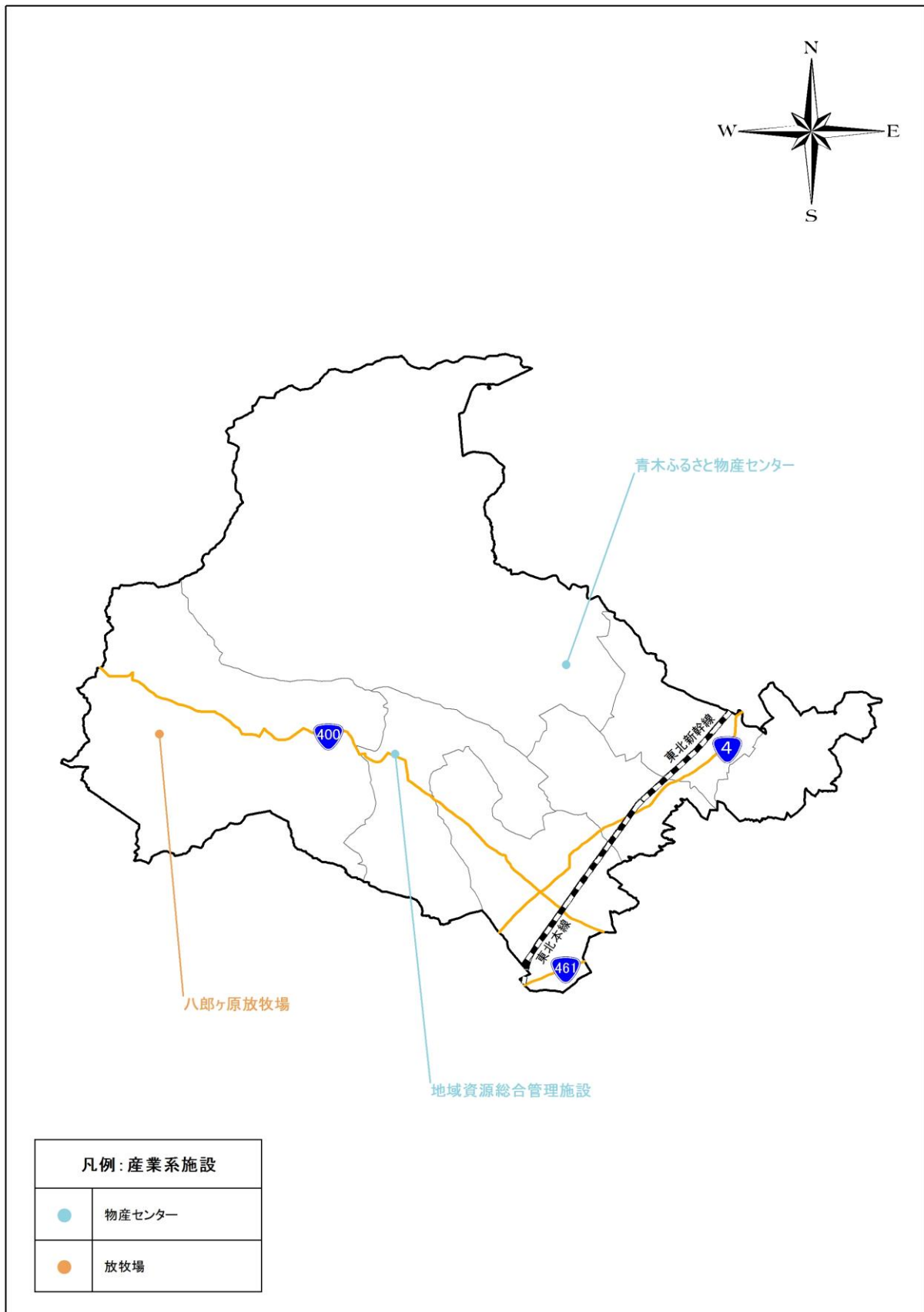
定番となっている高原野菜やアグリパルならではの珍しい野菜なども陳列しておりますので、何度来ても楽しめます。また、お母さんたちが作る漬物やお惣菜は、人気商品のひとつになっています。農村レストランでは、契約栽培の小麦とそばで作られたうどんや手打ちそばを楽しめるなど豊かな自然を満喫できます。

「八郎ヶ原放牧場」は、乳用牛の効率的な育成を目的として作られ、大自然に囲まれた約50ヘクタールの牧草地の中で預託放牧を実施しています。現在、指定管理者制度によって管理業務を委託しています。

育成牛の放牧は、広々とした大地、適度な斜面の中を自由に歩くため足腰が丈夫になり、牛の健康づくりに良いとされています。

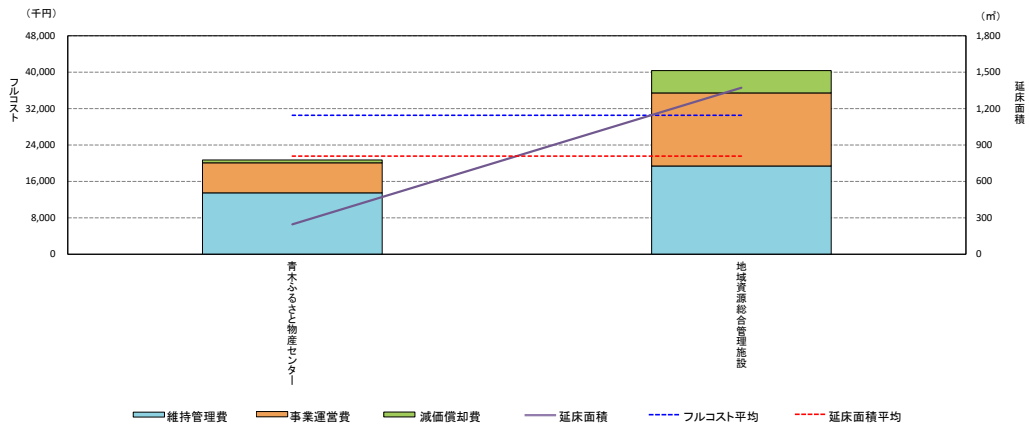
「八郎ヶ原」という名前の由来は、領主であった塩原八郎家忠が、平安時代末期にこの場所に館を築いたことによるといわれています。

図 4-8-1 産業系施設の配置状況



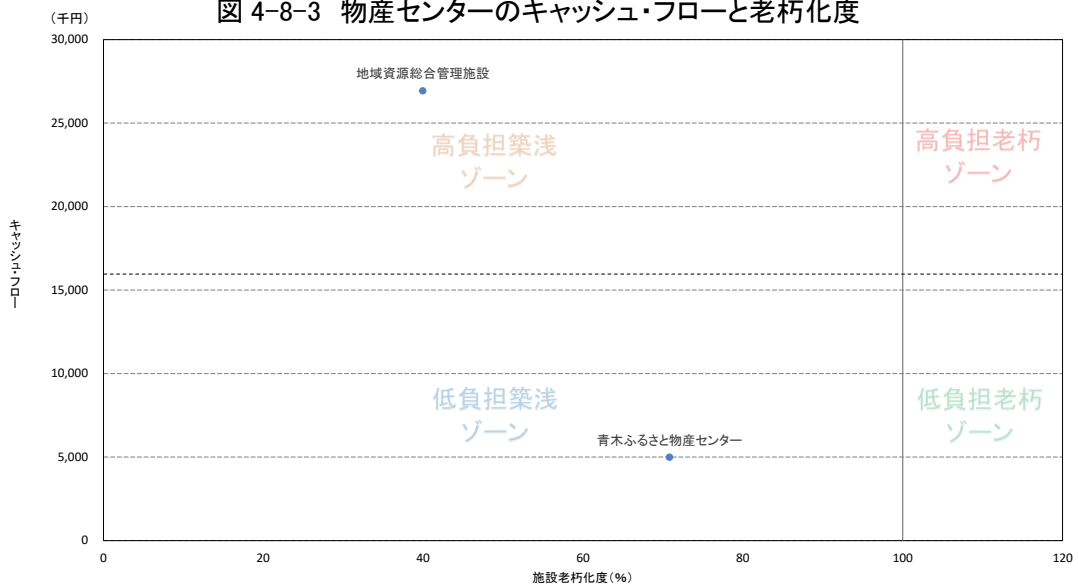
① 【産業系施設】物産センターの状況

図 4-8-2 物産センターのフルコストと延床面積



物産センターの延床面積は、青木ふるさと物産センターが 246 ㎡で、地域資源総合管理施設が 1,372 ㎡です。また、フルコストは、青木ふるさと物産センターが 20,708 千円であり、地域資源総合管理施設が 40,339 千円です。

図 4-8-3 物産センターのキャッシュ・フローと老朽化度



物産センターは市内に2施設あり、全て指定管理者の運営で行われています。青木ふるさと物産センターは老朽化度が70%程度であり、老朽化が進んでいます。

地域資源総合管理施設は、キャッシュ・フローが大きくなっており、今後コスト面での運営方法等の検討が必要な可能性もあります。

② 【産業系施設】放牧場の状況

八郎ヶ原放牧場の延床面積は、385 ㎡であり、また、フルコストは 8,430 千円です。

放牧場は市内に1施設あり、指定管理者の運営で行われています。

今後の本サービスのあり方を踏まえて、当放牧場施設のあり方について検討しておくことが必要です。